大正四年十月四日第三種郵便物認可　（毎月一回一日發行）　大正四年十二月一日發行第三巻第三號

近代思想

十二月號

■噫露國革命の祖母……荒畑生（一）
■勞働運動と個人主義……大杉榮（二）
■『社會的個人主義』自序……榮（七）
■資本家的產業……荒畑勝三（八）
■事實と解釋……荒畑勝三（一三）
■勞働者の傷害……宮嶋資夫（一六）
■相互扶助論……大杉榮（一八）
■眞面目の部分と全體……荒川義英（二四）
■泥棒乎役人乎……渡邊政太郎（二五）
■僕等の生活……同　志（二六）
■『英國勞働不安』……荒畑勝三（三〇）
■平民經濟學……大杉榮（三四）
■廿日鼠とドラ猫……榮（三八）
■同志諸君……榮（四〇）

近代思想社

東京市小石川區武嶋町二四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Asia Library
AP
95
J2
K47
No.2

田中王堂氏序
生田長江氏序
平塚雷鳥氏序

岩野泡[illegible]氏著

同棲六ケ年の
僞らざる日記

愛の爭闘

□人に示すの意なき日記は最も自然なる自傳である□よし多少の修飾をも存し、無反省の缺點をも帶ぶるにせよ、猶最も價値ある自己告白である□清子氏は今正に毀譽相半せる、問題の新しき女である□其清子氏が『深く羞耻を感じ』つゝ、『敢て勇を鼓してこの日記を』發表された□苟くも岩野事件に就て興味を有し、或は不快を感じ、或は想像を逞うし、或は批評を試みたる人々は、必ず此書を一讀するの必要と義務とがある□此書は清子氏の性情を暴露し、泡鳴氏の人物を直寫し、此性情と其人物との關係を細叙し、更に此二人を中心としたる文壇名士交遊の狀態を映出した、鮮明、雄麗、深酷、奇拔の活動寫眞である。

四六判五百三十頁
定價 一圓廿錢
送料 八錢

賣捌所 東京神田錦町一の十二 白羅館書店
振替東京三一四三六番

發行所 米倉書店出版部 [illegible] 四
二番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

近代思潮叢書

□第一高等學校教授 三並良先生著

（第九編）

生命中心の哲學

四六判洋布製 定價八拾錢 郵稅金八錢

近代の思想を辿りゆく時は、必ず一層高等なる精神的生命の活躍を希求憧憬する大努力に逢着すべし。本書收むるところ、或は純粹の理論、或は比較宗教學上の研究、或は偉大なる人格に關する評論等、その種類多しと雖も、皆この大精神の運動を看破せんとするものにあらざるはなし。是れ、生命中心の哲學と題する所以、且つ著者は獨逸の思想界と最も多く交涉す。獨逸今日の强大をなす根柢たる思想を窺はんとする人、一度本書を繙けば自ら釋然たるものあらむ。

（一）オイケンの哲學　三並良氏著

（二）現代思想と倫理問題　オイケン原著 今岡文學士譯

（三）生の更改と新藝術　内藤濯氏著

（四）科學と宗教　三井文學士著

（五）現代の思想家　小松文學士著

（六）自我の研究　野村隈畔氏著

（七）靜觀と思想　岡田哲藏氏著

（八）宗教の哲學的基礎　藤田文學士著

■定價各金七拾錢（但、七、九編に限八十錢）郵稅各八錢

□發兌　東京京橋尾張町　警醒社書店　振替東京五五參番□

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大杉榮氏著

社會的個人主義

■總洋布特製函入 ■紙數三百二十頁

■定價九十錢 ■送料八錢

新刊

新文明眞生活の豫言

著者自序

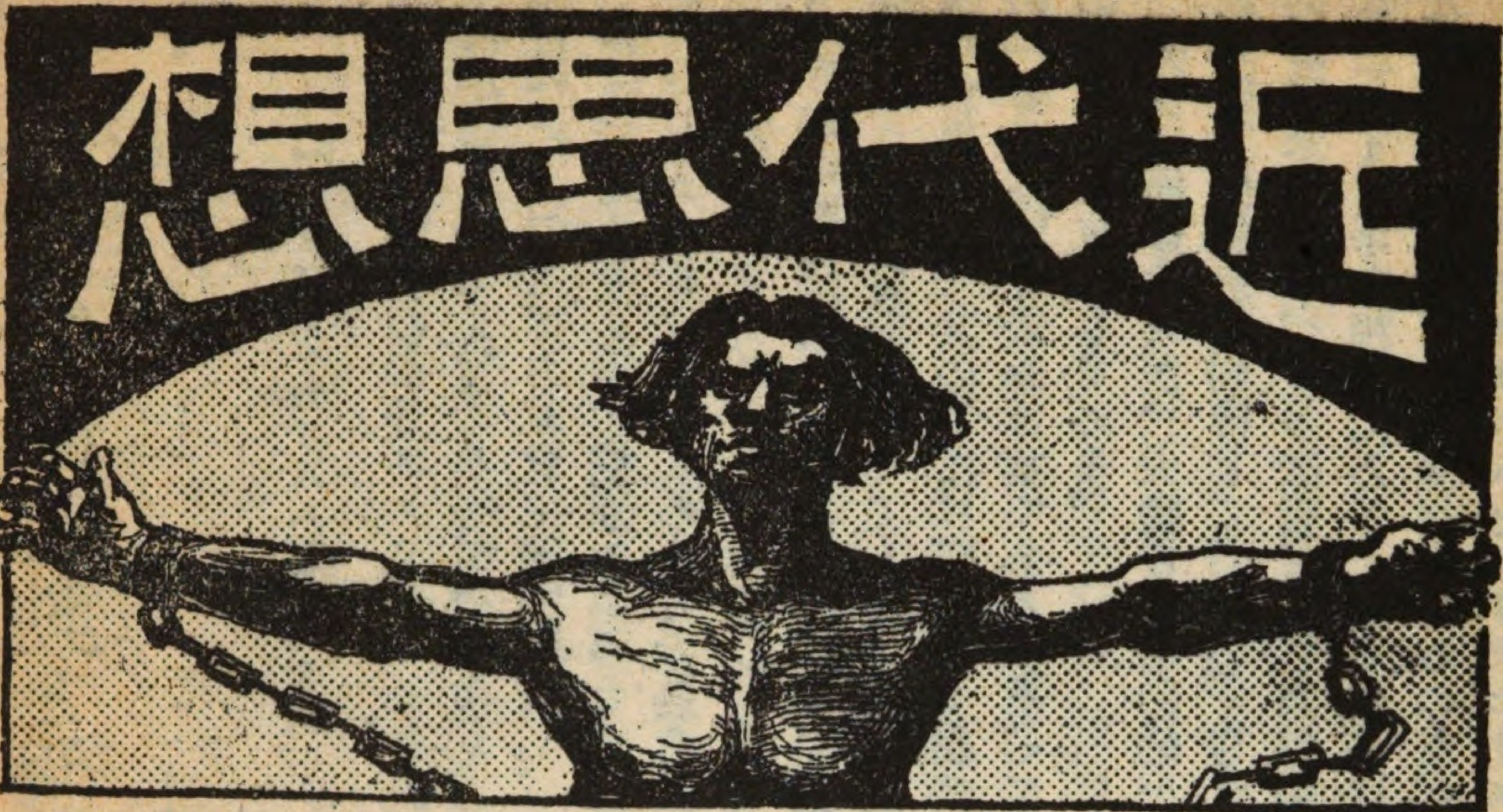
社會的個人主義とは各個人の個性の多種多樣なる自由な發達が、社會組織の第一條件であり社會淨化の第一要素である可き事を主張する一社會的學說である。今僕は、『生の擴充』出版以後一箇年間の諸論文を集めた本書に於て、此の學說の組織立つた研究を公にしたのではない。併し其の諸論文の何れも、僕が一生の事業とする此の學說の研究と、並との、眞摯なそして熱心な精神から出ないものは無い。此點に於て僕は本書が僕等獨特の社會的個人主義の理論と實行との大體を知る可き貴重な一記錄であるといふに憚らない。社會對個人、國家對個人の問題は近代のそして時と共に益々切迫し來たる、あらゆる現代の上の大問題である。そして僕は本書が此の大問題の根本的解釋の上に少なからざる貢獻を與へ得可き事を信ずる。是れ僕が本書によつて自ら恃み且つ自ら誇りとする所である。

大杉榮氏の思想は今や我が思想界の一大權威となれり。苟くも人間生活の眞意義を求め、眞人道の光輝を發揚せんとする者は、必ず氏が所說に聽くところなかる可からず。その論の首肯す可きや否やは姑く措くとするも、現代生活に於ける最も切要緊密なる一點に就いて、最も明快にして大膽なる解決を與へんとする本書は、何人と雖も必ず讀まざる可からざるもの也

發行所 東京市牛込區矢來町中の丸 振替東京一七四二番 電話番町二三二三番 新潮社

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

21
213-442254



第三巻　第三號

噫露國革命の祖母

今夏八月二十三日、米國マサチユセッツ州チルマアク市のアリス・ストーン・ブラックウェル孃が、露國の今志から受け取つた手紙によれば、露國革命の祖母として全世界に知られて居るカザリン・ブレシコフスカヤ女史は、露亞亞國境の最北端なる北極地方のブリユウ子に流謫せられた。人類の生存といふ點から云へば、是れは實に世界の末端と云ふべき處である。

ストーン孃が嚢に受け取つた手紙によると、ブレシコフスカヤ女史は北極圏の限界に在るヤクウツクに流謫されたといふ事であつたが、今や漸やく其處には只だ一時收監された事が解つた。ブリユウ子はヤクウツクからまだ、約一千四百哩の遠距離に在るのである。過去二十年間に、こゝに流謫された政治犯人は只だ二人で、それも皆男子であつた。ブレシコフスカヤ女史は今年七十一歳、そして殆んど兩眼の明を失して居る。

ブレシコフスカヤ女史は露國に革命運動起つて以來の大立物で、絶へ間無き入獄と、追放と、羅織と、迫害との下に、六十年の勇敢なる傳道を續けて來たのであつた。一千九百十年、女史は更に西比利亞に追放せられたが、今度の一層酷烈殘虐な流謫は、實に西比利亞の監獄から脫走せんとした結果であるといふ。

——荒畑生——

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

勞働運動と個人主義

——勞働者の個人的社會的創造力——

大杉榮

一　センディカリスムと個人主義

自由派經濟學の泰斗ルロワ・ボリユは、其の隷屬する紳士閥階級に最も忠實なる學者であるが、嘗つて其著『集産主義』によつて極力社會主義を駁論し、猶其の附錄によつてセンディカリスムの撲滅を主張してゐる。そして其の一節に、センディカリスムの個人主義を說いて、次の如く云つてゐる。

『勞働總同盟は、多數と云ふ事にも亦平等と云ふ事にも、甚だ大なる侮蔑を宣言してゐる。普通選擧も亦、其の蔑視を免れ得ない。其の常に口癖の如く罵倒する所は、即ち彼の「多數黨」と云ふ言葉である。そして常に此の「多數黨の迷信」に反抗してゐる。

勞働總同盟は只だ、大膽なる〇〇的少數者の不斷の活動の外に、何物をも期待してゐない。されば此の勞働總同盟の參謀本部を形づくる勞働者及び舊勞働者は、此點に於て甚だニイチエと相似てゐる。尤も彼等は、ニイチエの思想などに就いては、全く無知であるのだが。』

此のセンデイカリスムとニイチエイスムとの類緣は、ボリユのみならず、猶多くの學者等の承認する所であるが、更にセンディカリスムの此の主張を明かにする爲めに、其の主なる運動者の一人であるプウジエの言葉を、等しく亦ボリユによつて次に引用する。

『勞働組合運動は多數黨の議論を否認するに在る。若し多數者の言を採用せんと欲するならば、勞働組合に加入してゐない勞働者の大群のある事を忘れてはいけない。されば若し多數者の權利を尊重せんとならば、勞働組合に加入した勞働者は、常に他の臆病者の大群に隨つて行かなければならぬ事となる。常に掠奪に滿足する卑怯者に隨つて行かなければならぬ事となる。しかし自覺せる勞働者は、意志の實體以外に、周圍の多數者の勢力を受けない叛逆者以外に、此の社會に價値のあるものゝない事を知つてゐる。そして有らゆる勞働組合の加入者は、總て皆な多少の叛逆者である。』

これは勞働組合内に於ても社會に於けると同樣である。只だ活動的なるもの、勞働組合の事業に從事するもの、傳道を爲すものゝみが賴りになる。集金者に迫られて顰面をしながらも、兎も角も會費だけは拂つて行くと云ふやうな羊の如き勞働組合員は、其の勢力を勞働組合內に持つ事が出來ない。彼等は自ら此の勢力を拒んでゐるのだ。

けれども一度機會が來れば、此の無限に多産なる少數者は、其の放射的勢力によつて、羊の如き勞働組合員に活力

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を與へ、且つ勞働組合の外にある全く自覺せざる群集をも其の勢力の中に引き入れて了ふ。斯くして少數者の活動の力が現はれて來る。』

ボリュの云ふが如く、センディカリスト等は、ニイチエの思想などに就いては、其他の多くの科學者や哲學者の思想に就いてと同じく、全く無知であつたのだ。しかし斯く無知にして達し得た所に、彼等の思想の、極めて大なる眞實味と强味とが含まれてゐるのだ。彼等の知識や思想は、他人から教へ込まれた、若しくは書籍の中から寫し取つて來たものではない。彼等の知識や思想は、人間味を離れた抽象的眞實の、只だ頭の中でのこね廻しから出て來たのではない。彼等は只だ、其の生活の困難から、瀕死の狀態から遁れ出でんとする、より善き生活への本能的憧憬と活動とによつて、其の日々の膏血滴る生活と鬪爭との間に、自己と其の周圍との社會的關係を自覺し、知識し、思想し來たつたのだ。

此の事實は、先きに早稻田文學四月號所載『個人主義者と政治運動』の中に詳述し、更に論集『社會的個人主義』の中に再錄せんとしたが、不幸にして其部分だけを抹殺するの餘儀なきに至つた。從つて今僕は、勞働者が如何にして其の獨自の社會的知識と思想とを獲得し來たつたかに就いて、勞働運動史上の事實によつて、それを詳說する自由を持たない。そこで猶詳しくは、漸くにして發賣禁止の厄を免れた早稻田文學の同號と、及び本誌復活號所載『勞働運動とプラグマティズム』(『社會的個人主義』に再錄)との參照を希つて置く。後の論文は、此事を全く哲學的に說いた、僕等の思想と行爲との方法論の暗示である。

センディカリスト等は、信者の如く行爲すると同時に、又懷疑者の如く思索する。强烈なる生活本能に從つて行爲しつゝ、其の行爲の自己に與ふる結果に就いて、出來るだけの判斷に耽る。多くは直覺より成る彼等の思想は、此の行爲と判斷との全力的結實の集積である。そして僕は今、此の集積の中の一つである彼等の個人主義に就いて、彼等の言說によつてゞはなく、寧ろ彼等自身の生活によつて、說いて見たいのだ。

しかし此の生活と云つても、斯くの如き生活に到着した徑路は先きの理由によつて省略して、其の到着點の事實に就いてのみ說くの已むを得ない事を甚だ遺憾とする。そして又、其の到着點に就いても、先きにボリュやプウジェの言を引用したるが如き運動方法の上の事實ではなく、選びに選んで最も無事らしいと思はれる彼等の團體の組織だけに限るの已むを得ない事を、これ亦甚だ遺憾とする。

二　勞働總同盟の組織

國家の中に國家あるを許さず、國家は唯一不分割性のものであるとは、近世國家學の根本的一原則である。然るに佛蘭西の國家は、他の諸國家に於ても此の例外(と云ふよりも寧ろ規則)はいくらでもあるが、其の國家の中に强大なる組織の一敵國を潛ませてゐる。佛蘭西の參謀本部は、

諸隣國に對する攻防の作戰計畫に從ふと共に、又國內の此の敵國に對する作戰にも怠る事が出來ない。嘗つてもモロツコ問題の爲めに佛獨國交の危機に瀕した際、佛蘭西の諸革命黨殊に勞働總同盟の戰爭防止總同盟罷工案に對して、極めて周到なる鎭壓の作戰が、參謀本部の一室で窃かに講ぜられた事は、隱れもない事實である。

佛蘭西の此の勞働總同盟、即ち La Confédération générale du Travail（普通には略して C. G. T と云ふ）は、其の兵員一九〇四年には僅かに十六萬に過ぎなかつたのが、同十年には僅かに三十六萬に達した。そして此の佛蘭西國家內の一敵國は、其の生れ出て來た民主的社會とは全く相異なる獨自に創造した新組織を持つてゐる。しかもセンディカリスト等は、或る科學的發見や又は哲學的體系に基いて、此の獨自の組織を創り出したのではない。彼等は只だ、より善く生きんとする强烈な本能から、其の日々の生活と鬪爭との必要から斯くの如き組織を築き上げて來たのだ。そして自ら築き上げて來た此の組織の中に、彼等自身の社會的創造力を發見したのだ。そして彼等は、自らの此の組織を新社會建設の萠芽であると爲し、更にそれを充實し擴張して、遂には一般の社會組織とまで成長せしめんとしてゐるのだ。

勞働總同盟の組織の根本的原則は、經濟的利害の一致を以て、各組合員等の唯一の結緣と爲すに在る。即ち先づ同一職業又は同一工業の從業員は、其の政治的、哲學的、宗教的意見の如何に係らず、又人種や國籍や性の如何に係らず、只だ其の賃銀勞働者であると云ふ資格だけで、勞働組合（センディカSyndicat）に加盟する。されば勞働組合に加盟する勞働者は、或る政綱に調印するのでもなく、信仰告白をするのでもなく、又信仰箇條に從ふのでもない。只だ其の社會に於ける地位の上から餘儀なくされてゐる關係に入るのだ。斯くして其の仲間と團結しつゝ、生存競爭場裡に自己の强大を謀ると共に、又他の仲間の强大にも寄與する事となる。

斯くして組合內の勞働者は、其の共通利害の爲めに相結ぶ外には、其一切の生活に於て全く自由なる個人である。そして此處から、萬人が生産と消費との經濟的關係の上に協力して、其の生活の基礎を固めた上で、各人の自由なる發達を期せんと云ふ、其の社會的個人主義の根本的思想が生れて來たのだ。

此の自由自主なる個人の相集まつた、そして勞働總同盟の組織の單位である勞働組合も亦、他の勞働組合と相結ぶに當つては、其の共通利害の上に協力するのみで、全く其の團體の自由自主を保留する。然るに此の勞働組合は又、其の組合員の利害のみならず、更に其の職業若しくは工業に從事する一般勞働者の利害をも、常に代表する。即ちセンディカリスト等は、舊い同業組合の狹い利己心を棄てゝ更に勞働階級と云ふ廣い眼界の下に立つ。されば種々なる職業若しくは工業に屬する、同一地方の種々なる勞働組合が相集まつて、更に勞働組合地方同盟（Bourse du Travail

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

on Union de Syndicats）を形づくるに及んでは、其の同盟は少なくとも其の地方に於ける有らゆる勞働者の利害を代表する事となる。そしてセンディカリスト等は、此の地方同盟の組織の中に、今日の市町村に代るべき、將來社會の單位を見てゐる。

勞働組合は又、各種の勞働組合の結合たる此の地方同盟の外に、同種の即ち同職業若しくは同工業の勞働組合の結合たる同業勞働組合全國同盟（Fédération nationale corporative）を形づくつてゐる。そして此の各地の地方同盟が一大聯合を成すと共に、又各同業全國同盟も一大聯合を成し、此の二大聯合が相依り相扶けて、更に勞働總同盟の大組織によつて終つてゐる。

斯くして佛蘭西の革命的勞働者團體は三段に組織され、其の第一段は勞働組合、第二段は地方同盟及び全國同盟、そして最後の第三段は勞働總同盟となる。即ち此の勞働總同盟の中に、勞働階級の一切の組織が、集中される事となる。勞働階級の一切の組織は、此處に相接觸して、其の經濟的活動を結合し、强固にし、又普及させる。しかし個人主義的原則を以て出發した其の組織は、最後までも矢張り此の原則を以て一貫してゐる。即ち總同盟は、他の所謂民主的團體に於けるが如き、指揮命令の機關ではない。只だ勞働階級の革命的活動を組織立たしめ、强大ならしめる機關に過ぎない。從つて他の所謂民主的團體に於けるが如く其の中央集權によつて、各單位の活力を抑壓するものではない。其處には聯絡がある。しかし中央集權はない。衝動がある。しかし命令はない。聯合主義は到處に行き渡つてゐる。各個人は、各勞働組合は、各全國同盟は、各地方同盟は、總て全く自由自主である。又彼の衝動も上からは來ない。何處かの最も活力ある或る一點から出て、四方に益々强く且つ益々大きく波動して行く。

又此等の團體は、先づ總同盟、次に全國同盟若しくは地方同盟、そして最後に勞働組合と云ふやうに、上から下に又複雜から單純に組織されたのではない。反對に、先づ勞働組合、次に地方同盟若しくは全國同盟、そして最後に總同盟と云ふやうに、下から上に又單純から複雜に組織されたものである。そして其の組織の各段毎にも、又其の各段内にも、常に自由なる個人的發意が、最も大なる役目を爲してゐる。即ち勞働總同盟の組織は、大體に於て、自主と聯合との、社會的個人主義の根本原則に基づく。

三　勞働者の社會的創造力

往々僕等は、何故に殊に勞働者の間に入つて彼等と事を共にせんとするのか、と云ふ質問を受ける。

此の理由の第一としては、僕等は經濟的進化の傾向を觀て、勞働者が新社會建設の中堅たるべき事を知識するからである。今日の資本家社會は、其の經濟制度の必然の結果として、即ち社會的生産と個人的分配との矛盾（『社會的個人主義』中の『現代社會觀』參照）が益々增大するに從つて、遂に何等かの根本的改革を施されなければならぬ必要に迫られてゐる。此の改革は、今日の社會制度によつて何

等かの特權若しくは利益を享けてゐるものによつてゞはなく、其の爲めに最も不利益を蒙むるものによつて、計畫され又實行されなければならぬ。そして勞働者は、此の地位にあると共に、更に社會の原動力たる生産共者を掌中に握つてゐる。彼等は只だ欲しさへすればいゝのだ。

此の經濟學的及び社會學的理由は、僕等をして知識的に勞働者の群に投ぜしめる。しかし又、既に今日の社會制度によつて多少の利益と特權とを有する僕等の如き中等階級の徒が、斯く勞働者の群に投ずると云ふには、此の知識的理由の外に、更に他の重要なる動機がある。

此の知識と相俟つて發達したものでもあらうが、僕等には、周圍の壓迫に就いての敏感と、其壓迫に對する强烈な反抗本能とがある。そして此の敏感と反抗本能とが、先づ僕等をして起たしめた、恐らくは第一の理由であらう。幼時からの、父母や、年長者や、教師等の壓迫。學校を出てからの、世間や生活の爲めの壓迫。僕は僕自身の成長を顧みて、全く此の壓迫とそれに對する反抗との連續であつたかの如き感じをする。そして僕は、主として社會主義から得た社會學的及び經濟學的知識によつて、此等の壓迫の殆んどすべてが同一根柢から來る事を敎へられ、且つそれに對する反抗を是認する道德を與へられたのだ。

同時に僕等は又、僕等の耳目に觸れる勞働者階級の人々の無知と愚昧と困窮とに對して、一種の人道的熱情を感ぜざるを得ない。多くの社會主義者若しくは無政府主義者は自己の受くる壓迫に就いてよりも、寧ろ先づ此等の勞働者の生活狀態に憤激して、所謂勞働運動に身を投じた事であらう。僕自身の行き方はこれと反對であつたやうだが、しかし其の僕としても、此の人道的感情には最高の尊敬を拂ひ、又僕自身にもそれが多分にある事を否めない。

けれども僕は、殊に最近の僕は、此等の諸理由によつてよりも、更に最後の他の一大理由によつて、勞働運動に引きつけられてゐる事を感ずる。そして此の理由が、最近の僕の、勞働運動に對する態度を決定してゐるやうに思はれる。それはクラポオトキンなどの著書によつても、既に古くから僕の社會學的知識とはなつてゐたのだが、それが本當に僕の腦髓にも心臟にも深く浸み込んで來たのは、此の四五年以來の事である。即ち僕は、勞働者の悲慘な生活に對する憐憫とか同情とかではなく、却つて其の生活の中に或る偉大なる力を見出して、其の力を讃美し、又自らも其の力の中に同化して了ひたいと感ずるやうになつたのだ。

五年以前の二年半ばかりの獄中生活の間に、僕は少しく露西亞文學に親しみを覺えて、トルストイ（若しくはダスタエフスキイ）、トウルゲエニエフ、及びゴリキイの各々の對平民的態度に就いて、僕にとつては甚だ興味深かつた、比較觀察をした事がある。そして殊に僕は、トルストイやダスタエフスキイが平民の溫順と忍辱とに、ゴリキイが平民の放恣と反抗とに、各々人生の眞理を認めた事に、最も興味深い對照を感じた。僕は、トルストイやダスタイエフスキイと共に、甚だ溫順の德を尊敬するのであるが、奴隷

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

的境遇にあるものゝ忍辱は、却つて甚だしき不徳であると考へた。そして寧ろゴリキイの主人公の放恣と反抗とに强い同感を覺えた。猶此の事に就いては、近くダスタイエフスキイ論を書いて詳論する。

兎に角僕は、獄中に於ける此等の文學書の影響と、及び其の以前から續けてゐたセンディカリスムの研究とによつて、勞働者の有する强烈なる生活本能と、反抗本能と、及び其等の本能の行爲となつて現はれた結果の、偉大なる個人的及び社會的創造力に打たれたのだ。佛蘭西のセンディカリスト等が、如何に刻苦して其の血と肉と骨とを以て、自己及び其の自己の處るべき小社會を築き上げて來たかは『個人主義者と政治運動』の中に詳說した。又先きに云つた勞働總同盟の組織の如きも、其の好適例である。

僕はそれ等の事實を見て、勞働者の此の力を讃美すると共に、自らも亦此の力の中に同化し去りたい念を禁じ得なくなつたのだ。そして又、勞働者の間の此の力を感じて始めて、先きに云つた經濟的進化の傾向とか、勞働者が新社會建設の中堅となるとか云ふ知識が、本當に僕の全身の中に活躍して來たのだ。

遠い佛蘭西の事ばかりではない。僕は既に、此の日本の國に於ても、勞働者の此の力の事實を見てゐる。少なくとも個人的に、斯くして自らを創造し來たつた勞働者を、少數ながらも僕の周圍に見てゐる。そして僕は、斯くの如き勞働者と共に、更に社會的創造に入るべく、勇敢なる少數者たらん事を期してゐる。

『社會的個人主義』

榮

自序

社會的個人主義とは、各個人の個性の多種多樣なる自由な發達が社會組織の第一條件であり、社會進化の第一要素であるべき事を主張する、一社會的學說である。

今僕は『生の闘爭』出版後一ヶ年間の諸論文を集めた本書に於て、此の學說の組織立つた研究を公にしたのではない。しかし其の諸論文の何れも、僕が一生の事業とする此の學說の研究と傳道との、眞摯なそして熱心な精神から出ないものはない。此の點に於て僕は、本書が僕等獨特の社會的個人主義の、理論と實行との大體を知るべき、貴重なる一記錄であると云ふに憚らない。

社會的個人、國家對個人の問題は、近代のそして時と共に益々切迫し來たる、有らゆる現實の上の大問題である。そして僕は、本書が、此の大問題の根本的解釋の上に、少なからざる貢獻を與へ得べき事を信ずる。是れ僕が、本書によつて、自ら恃み且つ自ら誇りとする所である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

資本家的產業

荒畑勝三

大杉榮の『平民經濟學』の第二章第二節に、『雇主は法律を侵さゞる限り、思ふまゝに其の事業を運んで行く事が出來る』また、『雇主階級は社會の欲望を滿足さすに必要なものを供給すると云ふ目的で、其の生產を行つてゐるのではない。只だ出來るだけ多くの利益を得たい爲めだ。此の利益の爲めの生產と云ふ事が、今日の社會の特徵なのである。』云々といふ項がある。是れは言葉は短かいが意味は深い、吾々が現在の社會のどの方面、どの部門、また如何に廣い處へでも如何に狹い處へでも、當て篏めて外れつこの無い事實である。吾々の社會觀、經濟觀も、約めれば此の數語に盡るとも云はれるし、吾々が現在の社會制度を改革しやうとすると云ふのも、畢竟は此の『雇主階級の利益』の爲めの生產をば、『社會の欲望を滿足』さす生產に變へんとするに外ならないのである。

資本家制度の下に於ける生產は、一部少數なる資本家の利益の爲めにせらるゝが、社會全般の利益福祉とは沒交涉である。啻に沒交涉なるのみならず時には犧牲に供して憚らざる證據實例は、算へ盡せぬ位ゐある。假令へば、今日でこそタングステンとか、オスラムとかいふ種々の金屬線電球が、漸やく從來の炭素線電球に替りつゝあるが之を數年前未だ炭素線電球のみ用ひられて居た頃、何れかの電球會社の一技師若くは一職工が、金屬線電球を發明したとせば奈何。金屬線電球は炭素線電球に比すれば、光力に於ては約三倍を增す事が出來るし、又費用に於ては約二分の一を節し得られるから、社會全體から云ふ時は明らかに有利有益なものである。然し電球會社は、そうだからと云つて直ちに不利益なる炭素線電球を棄てゝ、有利有益なる金屬線電球を作る事はせぬ。何となれば、電球會社は平生何十萬個、何百萬個といふ莫大なる電球を製作し蓄藏して居るから、是れを悉く賣切つて終はない限り如何に社會に有利だからと云つて新電球の製造には着手しない。啻に自社が新發明を秘し隱すのみで無く、他社が新らしい發明をしはせぬか、又それを賣出しはせぬかと、そればかり心配して居る。如斯は、資本家に云はせたら或は當然の事かも知れぬが、然し社會とか人類とかいふ大きな方面から見れば、何と云ふ不經濟、何と云ふ不道理であらう。

尤も今擧げた例は、かくあり得るといふので、こういふ事實があつたといふのでは無い。然し資本家制度の下の生產、殊に交通とか燈火とかいふ多數人類の日常生活の上に、衣食同樣重大な意義を有する事業が、資本家の私利私慾の爲めには、如何に社會の公益を無視蹂躪して迄も左右されるかといふ實例も、また決して少くは無い。手近い處では例の千代田瓦斯と東京瓦斯との合併問題である。東京瓦斯會社は明

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

治十七八年の成立で、事實上殆んど瓦斯事業を獨占して居たが、未だ之が特許權は得て居なかつた。その取締規則の不備に乘じて起つたものが即ち千代田瓦斯で、明治四十年頃にその設立が企てられ、例の利光一派なぞが關係して明治四十五年點燈後二三ケ月にして合併して了つた。當初千代田瓦斯は東京瓦斯が瓦斯事業を獨占して、一千立方尺二圓四十錢の高價に賣つて居るのを攻擊し、自社は一圓八十錢で然も五分引と稱して市民の同情を博し、甘々と開業權を獲得したが最後、市民に對する約束なぞは屁とも思はずに、東京瓦斯と合併して了つたのである。

もつと酷い例は、例の日本電燈會社である。是れは明治四十年頃の成立で河原茂輔等が營業權を得、四十四年頃から準備に取りかかつたが、株を滿足に拂ひ込む者が無い爲めに、兎角捗らぬ。それを引受けたのが彼の安田善次郎で、彼はコイツ確かに東京電燈に賣り付けて一と儲け出來ると考へ、態々株主に金を貸し迄して株を拂ひ込ませた。それから安田は、電氣は桂川水力電氣から買ふ約束を結び、得意はどんどん勸誘する、その上、ナーニ一年百萬圓づゝ損をしても三百萬圓捨てる覺悟さへあれば、三年はやつて往かれるなぞと豪語して、明日にも開業するやうな氣勢を示した。が其實は何もせずに、只管東京電燈が强敵の現はれたるに寒心して買收の相談を持ち込むを待つて居た。斯くして大正二年に至り、時の農相山本達雄が仲介して東京電燈に賣付の談判をなし、未だ一燈をも點火せずして買收される契約を結んだ。但だ此の際は後に遞信省が許可しなかつた爲めに中止され、哀れや安田は暗々百五六十萬儲け損なつたが、然も是れなぞは、『上手の手から水が洩る』の譬で、彼が今まで甘々と成功し、易々と暴富を積んで來た手段の一が、其時は生憎とやり損なつたと云ふに過ぎないのである。

こんな種類の例を擧げて居たら、本誌を替ゆるも猶足れりとせぬだらう。昔し佛蘭西に大飢饉があつた時、米國から輸入して來た小麥を資本家が買收して、海水をブッかけて腐らせて相場の低落を防いだ事がある。英國では魚商が魚の相場を上げる爲に、三千人も食へる程の鮮魚を腐らせ、鷄卵商は卵を一週間に五十萬個も潰したといふ事である。一千九百八年に佛國巴里の料理人組合は宣言書を出して、一料理店の料理番が主人から腐つた肉の調理を命ぜられて拒んだ爲めに、直ちに解雇されて爾來何處の料理店でも雇はない事を社會に訴へた。一千九百十二年頃米國イリノイス州で夥しい馬鈴薯が腐敗させられ、南部諸州では多量の木綿が燒却せられ、カリホルニアでは巨額の葱が腐敗せしめられ、ワシントン州では數百噸の食料品が冷藏庫詰にされて食へなくされ、また全果樹園の林檎が採られないで、其儘腐蝕せしめられた。而して是れ皆人爲的に相場を上げる爲めに外ならぬ。是れ等は何れも資本家が自己の利益の爲めには、世間の難儀も、他人の困難も、甚だしきに至つては顧客の健康をも顧みざる好適例である。したが日本にもこういふ例は隨分ある。今度の大典で男爵を授かる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

とか、授けられやうとして居るとかいふ大倉喜八郎は、日清戰爭當時石コロの鑵詰を兵士に食はせて金を儲けたといふではないか。濱野茂とか賀田金三郎とかいふ相場師共に、米の大買占をやられた爲には、飢饉でも無い時に目の飛び出るやうな高い米を食はなければならなかつたではないか。彼の三井物産が曾て人參の値を上げる爲めに、朝鮮で人參を五十萬斤を燒いた事は、一と頃、有名な話柄を作つたではないか。苟くも資本家的商業、資本家的産業の行はるゝ處、基督教道德も大和魂もあつたものじや無い、『利益の爲の生産』、『利益の爲なら何でもやる』といふ事が法則になつて居るのである。

之れは生産事業では無いが、等しく資本家的事業であつて、また資本家がその利慾を遂げんが爲めには、如何な不道德、如何な沒義道でも行つて憚からぬ例證が、茲にもまた一つある。舊の北海道長官男爵園田安賢の社長たる東京國債といふ月掛貯金會社があつて御勿體至極も無い、勅語の文句まで引いて貧乏人に貯金を勸め、毎月二圓五十錢づゝ三年掛ければ、滿期の際には百圓の公債を拂ひ戻すと稱した。此の會社は固と合資であつたのを、明治四十三年下半期に資本金十萬圓、內拂込二萬五千圓の株式組織に改め、大正二年下半期まで三年半の間に懸金三十九萬六千圓を集めた。此の內から滿期拂戾金と解約返戾金とを四萬五千圓支出したから、猶三十五萬圓殘つて居るべきであるに、實際は滿期引渡備金十三萬圓、解約拂戾備金一萬八千圓しか殘つて居ない。即ち恰ど二十萬圓といふものは、掛金者の動もすれば遲れ勝なのに乘じて、嚴重な規則を楯に解約罰金としてゴマ化したものである。然しまだ約十五萬圓といふ金は、掛金者に返戾すべき金として積立てゝある筈であるが、是れは會社の關係者が借りたり、社長園田との緣故からして三文の價値だも無い北海道の荒蕪地に貸付たり、悉く費ひ込まれて返せない。處が株式組織後既に三年に達し、掛金の滿期となつたので、厭でも應でも返さねばならなくなつた。で會社は新らしい加入者の掛金を以て、滿期掛金の返濟に振當てやうとした。然るに加入者は減る一方なので、此の方法では到底返濟覺束無しと見て取つた會社の重役連は、新たに資本金五十萬圓の日東國債といふ貯金會社を起さんとした。

彼等は此の日東國債が首尾よく出來た曉は、その拂込株金を以て東京國債の滿期掛金を返した上、更に東京國債を五萬五千圓で買收させ、その買收金の差額で懷中を暖める手筈であつた。即ち東京國債の拂込資本は二萬五千圓であるのに、之に權利を付けて五萬五千圓に買收させれば恰ど三萬圓の利益が浮く譯で、それは重役共の間に分配される段どりであつた。此の合併案は其後、巧々と成立して園田は多額の慰勞金を貰つて引退し、會社は相變らず貧乏人泣かせ、勞働者困らせをやつて居る。政府が無盡法案とか何とかいふ取締規則を出す頃には、儲ける奴はこんな非道な事までして儲け盡し、フン掠られる者はまるで剽盗同樣の目に遭され盡して居るのである。

然もこんな例は、決して一東京國債

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のみでは無い。現に先頃も大阪北濱銀行が破產して、岩下、小塚、永田、中西なぞいふ重役連は、横領其他の罪名で投獄せられたが、就中中西某の如きは名古屋支店長時代に同地花柳界で豪遊華奢一世を驚かし、その費消せる行金實に百十五萬圓の多きに上つたといふではないか。中には又、破產して到底取れそうも無い銀行の預金者から、百圓二百圓の預金額をも二束三文に買ひ取り、然も銀行へは自分の借金の返濟金として其預金額を差出す者もあるといふ事で、馬鹿を見るのは只だ只だ食ふや食はずで貯め込んだ無けなしの金を、いい加減にゴマ化されて了ふ預金者ばかりである。

腐つた肉の料理を命ぜられた料理人の事は今も書いたがミルクキャラメルを賣出して居る森永製菓會社の女工には、危險な肺結核患者が少くない。現につい先月も、死ぬ前日まで濟生會の病院へ通ひ乍ら、キャラメルの包み紙を貼りに通つて居る芝浦邊の一少女が肺結核の爲に斃れた事實がある。死ぬ前日まで樂々と體を休める暇も無く働らかせる世の中も世の中だが、キャラメル包裝の機械を買ふ僅かばかりの金を吝んで、肺結核の末期に在る少女に食料品を取扱はせる森永といふ會社の社會衛生を無視せる事實は、如何にも今日の資本家氣質を語り盡して居るではないか。

以上の如きものが、實に資本家がその富を增さんが爲めに經營して居る產業、若くは事業の眞相なのである。勿論、以上はホンの一部分に過ぎないのであつて、若し更に多方面に亘つて、更に多くの事實を集めたならば、もつと驚くべき、もつと呆れるやうな、奇怪不埒なる暴狀醜態が數限りも無く曝露せらるゝに相違無い。

讀者諸君、諸君は世上に餓えて居る者の多い事を、その爲には親が子を捨て夫が妻を殺し、老ひて盜み、若くして斃るゝ等、悲慘なる出來事の數々が行はれるのを知つて居やう。然るにその傍には、只だ己れ一個の利益の爲に數千人をも養ふに足る程の食料品を、無殘無殘と燒いたり、腐らしたり、亡ぼしたりする者の在る事實を何と觀るか。觀てごう思ふか。勿論何人と雖も無茶な怪しからぬ、不合理な、改めねばならぬ事と思ふに相違あるまい。然し乍ら、生產といふ事が社會人類の欲望を滿足さす爲に行はれず、單に個人の利益を增す爲に行はれて居る間は、此の醜怪なる罪惡は永續して決して改めらるゝ事が無い。

吾々の日常生活に如何でも無くて適はぬ物が、單に資本家の利益といふ事の爲めに、好き勝手にされるといふ事は、吾々の生活なり、延ゐては生命なりが、資本家の好き勝手になる事で、天下恐らくこれに越した危險はあるまい。況んや一旦米の大買占でもあらうものなら、それこそ吾々は下手人無しで縊り殺される事になるのである。そうして是なぞも、一切の社會的生產、社會的事業といふものゝ性質が、今日の如く個人の利益の爲めでなくして、社會全般の欲望を滿足さすといふ事にならない限り、吾々は永久に此の恐ろしい不安から免がれる事は出來ない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事實と解釋

荒畑勝三

■日本は東洋の番犬乎

英國方面の打消あるに拘はらず、華盛頓電報の印度に於ける叛亂勃發を報ずること、頗ぶる急なるものがある。

上海なる亞細亞日報の報ずる處によれば、コロンボに起れる叛軍は既に濠洲兵の爲めに打ち破られたが今猶戒嚴令下に在り、又ベンガルに起れる叛軍は英國の討伐隊を打ち破つて多數の軍器を分捕したといふ說がある。是れ等の叛軍はアフガニスタン方面より輸入せる軍器を有し、又最近には米國或は青嶋から輸入したと稱せらるゝ、モーゼル銃四萬挺を有して居る。更に、カルカッタ政府は此頃革命黨の領袖三四百人を捕へて處刑し、セイロンでは有名なる富豪、革命加擔の嫌疑を以て捕へられ、全財產を提供して漸やく赦されたと傳へられる。

尤も、此の記事には多少信を措き難い點もあるとの事であるが、然しバロダ國と共に勢力强大、第一等藩王國として諸藩王の上席を占むるハイデラバッド王、ウスマン●アリ汗の廢黜されたと云ふ風說の如き、英國陸相キッチナア元帥が巴爾幹行の眞目的は、實に波斯及び印度に在りと云ふが如きは、偶々不穩危險なる革命的風雲の、印度大陸の上に懸垂せるを語れるものと見られる。

而して、新聞紙が此の問題を論ずる、多くは之を以て、獨逸が土耳古との結託を利用して、印度七千萬の回敎徒を煽動したといふに歸して居るが、然も印度が英國の羈絆を脫して獨立を圖らんとせるは、決して今日に始まつた事では無い。すべての被征服國民、被壓制國民の如く、謂ゆる仁慈なる女皇の統治の下に置かれた其日から、自由なる英國政府の苛斂誅求の下に置かれた其時から、彼等は既に今日の叛亂、革命、獨立を企圖して居たのである。獨逸の煽動は或は之あらん、然もその裏面背後には、多年の壓制に對する鬱勃たる革命の潛勢力在りしを思はねばならぬ。

而して日本が日英同盟の協約に基いて、第一艦隊の對馬、明石、新高の三艦を特派したと云ふ情報に至つては、その眞否如何は未だ容易に知り難しとするも、珍田駐米大使が『日本は印度若くは埃及に出兵を求めらるゝ場合日英同盟に基き出兵の義務あり』と言明せるの一事は、日英同盟の眞意義を示せるものとして、特殊なる興味を與ふるもので無ければならぬ。日本果して英國の爲に東洋の番犬たるべき乎、東洋の君子國は武力を擁して、印度獨立の義軍を鎭壓せんとするであらう乎、吾等は刮目して日本が淺黃頭巾を脫ぐの日を見んと欲する。

■帝王者流の憂ふる處

獨帝は最近また丁抹王を介して、頗ぶる有利なる條件の下に、露帝に講和勸告を試みたとの說がある。而して其理由とする處、如何にも帝王者流の杞憂を曝露して居て面白い。即ち露國內地は物資缺乏して、物價暴騰せるのみならず、買はうにも品物が無い位であるのに加へて、戰地の避難民が數十萬入り込める爲め家賃の如きも僅々一ヶ月間に二倍以上に騰貴し、爲に貧民勞働者の窮乏困厄甚だしく何時一揆內亂の勃發するやも計り難い狀態に在る。然るに此際、最も露國の內訌を憂慮する者は誰ぞと云へば、實に敵國の君主カイゼルであつて、彼は露國が常に苛察なる專制主義を支持し、官僚跋扈跳梁して人民を無知暗愚ならしめて置く事を希望して居る。蓋しかりそめにも露國民が覺醒蹶起して或は共和政體の建設を見るが如き事あらば、獨逸從來の自國商品の好市場は、一朝にして恐るべき隣强と變ずるからである。

獨逸が露國の革命家を窘逐迫害する上に於て、多年露國政府に助力し來れるは著名な事

實であるが、今や又、露軍の連戰連敗の爲め人民の不平反抗漸やく高まり來れるを見て、カイゼル及びその官僚は痛心措く能はず、露國宮廷及び官僚中の獨逸種をして極力人民の壓迫に努めしめ、最近議會の停會を決行せしめた。斯くして露國が少くとも君主專制と官僚萬能との命脈を保つて居る間に、逸早く講和を締結せん事は、是れ獨逸の切望焦慮して止ざる處であるといふ事である。人民の無知暗愚と、自國商品に對する市場の確保と、是れ今日の帝王者流が、獨り自國のみならず、また他國に對しても杞惧憂慮しつゝある處である。

■喧嘩過ぎての棒チギレ

獨帝が露帝に講和勸誘を爲せりと云ふ所以のもの、前項の如き事情あるに基づくこともその一因であらうが、最近の歐洲電報は獨逸の窮迫日に甚だしきを加へ、獨逸の自發にかゝれる平和運動また逐日强烈の度を增し來れるを傳へて居る。

曰く、前首相ビューロー、及び前殖民大臣ゾルフは、和蘭及び瑞西に於て平和運動を繼續しつゝありと。曰く、生命貴重の觀念、社會一般の騷擾、並びに現狀に對する不滿の示威運動の增加は、時を同じふして平和運動を催起せりと。曰く、社會黨議員カウツキーは『ニュウゲイト』に寄書して『若し戒嚴令と一般の不幸とを永續せば、吾人は議會に吾人の思ふ所を明白に告示すべし』と云へりと。曰く社會黨機關紙ホールウエルツは、痛切に國内の慘禍を訴へたる爲め再び發行を停止せられたりと。獨逸が今や戰爭の慘禍に倦み、その拂へる犧牲の餘りに大なるに倦み、民心漸く平和を冀ふに至れる情況、方に歷々として見るべきではない乎。

然し乍ら、社會黨議員カウツキー氏が『ニユウゲイト』紙に對する寄書は、吾等の苦笑を禁ずる能はざる處である。夫れ社會黨が非愛國不忠君を以て非難せらるるや、所謂國步艱難の日に當つては社會黨と雖も戰線に立つを辭する者に非ずと抗言したのは、足下の友人ベーベル氏ではなかつた乎。政府が多額なる軍事費を議會に提出するや、足下の社會黨は相續税の好餌に釣られて之を可決し、以て今日の禍因を作らなかつた乎。歐洲大戰亂勃發の當初、議會に於て戰費を可決し、相率ひて獨帝の前に忠誠を誓へる者は、また實に足下の社會黨ではなかつた乎。カウツキー氏よ足下は今や一般の不幸にして永續せば、議會に所思を明示すべしと稱して居ると云ふが、足下の議會に於ける『所思の明白なる告示』が爾く有効にして强烈なるものならば、何故に此の一般の不幸が惹起せらるゝに先だつて、之が防止の策を議會内に於て講じなかつたのである乎。此の千古比無き大慘劇をば、未前に防がなかつたのである乎。喧嘩過ぎての棒チギレは、此の極惡無道、兇暴殘忍、人類の歷史に最大汚點を印したる紳士閥の權力爭奪に對する足下等の責任を、寸毫たりとも輕くする所以では無いのである。

■ケア・ハアデイ翁の訃

英國勞働黨の領袖ケア・ハアデイ翁は昨夏以來健康勝れざる爲め、グラスゴーに靜養中だつたが、遂に肺炎を發して九月二十六日享年五十九歲を以て逝去した。翁は蘇格蘭の人七歲の時炭坑に入つて通風係となり、十六歲迄は眼に一丁字も無かつたが十七年間の勞働生活中孜々として獨學を續け、二十四歲の時炭坑を去り、次で坑夫團體の幹事となり、一千八百九十二年初めて代議士に選出された。その獨立勞働黨の組織を見たのは、主として翁の努力に由るのである。

南阿戰爭の際、翁は猛烈なる非戰論を唱へ又一千九百七年印度地方を旅行せる當時、各地に於て試みた社會主義演說の爲め印度人の反英心を煽り、遂に印度退去命を受くるに至つた。今次の大戰前、翁は佛國合同社會黨のヴイヤンと共に、『國際的同盟罷工及び平民的騷擾を以て戰爭を防止すべき』議案を、國際社會黨大會に提出した。翁の同志は語つて曰く、今回の戰爭を防止せんとせる彼の努力は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

その精神と精力とを消耗し盡くしたのである。獨立勞働黨がその活動を專ら政治運動に局限し、その精力を議會政策に傾倒し、また經濟運動直接行動を捨て顧みなかつたのは、幾多急進的勞働者間に非難反對を招いだが、然もその非戰運動の爲の掉尾の大活動は、方に翁の人格と、誠意と、熱情とをして、有ゆる疑惑の外に超然たらしむるものである。

■實業家授爵の風說

今次の御大典を機として、大倉喜八郎、森村市左衛門、古河虎之助の三實業家に、各男爵を授けらるゝ賢き邊りの思召なるやに、新聞紙は傳へて居る。吾々平民共は是れ等准男爵閣下の偉勳功績善事德行を記臆感銘して、永久に忘れざるべきである。

大倉准男爵が、日淸戰爭の當時、當路の大官と結託し石礫の混入せる牛肉の鑵詰だの、毛の磨り切れた古毛布だの、糊付底の靴だのを軍隊に納付して、如何に忠勇なる外征兵士の勞を緩らげたかは、人の普ねく知れる處であらう。僕寡聞にして森村准男爵に就ては、不品行なる基督敎徒といふの外、別に知る處が無いが、古河准男爵の祖父市兵衛は、鑛山設備に費やす金を吝んで渡良瀨河に鑛滓を投入し、栃木、群馬の各縣下の諸村邑に、多量の鑛毒を振舞つた足尾銅山の持主である。そうして明治四十年頃、政治的には古河家と姻戚關係あり、且つ鑛毒問題當初の當路大臣たりし陸奧宗光の子分で、經濟的には古河鑛業會社の顧問たる時の內相原敬は、土地收用法に依て最後まで鑛毒問題の爲に戰へる谷中村を滅亡させた。而して吾が古河虎之助氏は、實にその祖父等が斯の如き功績に依て、男爵を授けられんとするのである。

■御大典中の同盟罷工

□衣紋方の罷工　去る二月から京都御苑內舊桂宮邸で衣紋講習會が開かれ、山科、高倉兩派は隔日毎に六十名づゝ集合して講習し十月三十日を以て終了した。然るに日野西會長から講習員に授與した修業證書には、單に衣紋講習を修業せし事を證すとのみで、今回の御大典に關する文字は何も無い。そこで講習員等は難かしい衣紋を稽古したのも、畢竟御大禮の御用命を光榮としたからなのに、こんな事では御大禮の衣紋方に採用されるか如何かも解らぬと憤慨の局、一同大禮使に談判を試み場合に依ては同盟して衣紋方を拜辭せん形勢を示した。大禮使の方では大に驚き、早速大森京都府知事に調停を依賴し、改めて講習員に今度の御大禮に採用相成るもので、決して無用の講習ではないといふ一札を納めて無事落着を告げた由。

□車夫のストライキ　御大典參列員の俥は、京都府で世話を燒いて伏見の勇山といふ者に請負はせ、勇山は諸國から二千五百人の俥夫を驅り集め、仕事の有無に拘はらず、五日間は一人一日、一圓九十五錢といふ契約を結んだ。然るに愈々當日となると、一日一圓二十錢しか渡さず、又客を乘せなかつた日は一文も拂はず、其上一日三十五錢の飯代と法被代一日四十錢とは、別に差引くなぞ云ひ出したので俥夫の不平甚だしく、中には俥を賣つて歸國した者もあつた。そして十日には朝の二時頃から起され、持場へ赴むいて客を御所へは運んだが、十時になつても十一時になつても辨當を食はせぬので、第二朝集所で百人ばかりの俥夫一團となつて激昻し、何れも車を曳いて引上げるといふ騷動を演出した。掛りの巡査等が漸やくの思ひで鎭撫したが、間も無く再び擾亂を起し、果は大聲をあげて吶喊するの有樣に、富田保安課長多數の警官を率ひて出張し、皇宮警手と協力して懸命に鎭撫したが容易に靜まらなかつたといふ。唯だ、其後の成行に就ては、遺憾ながらその情報に接せぬ。

□更科蕎麥の罷工　江戶名物の一と謳はれた更科蕎麥の本舖麻布永坂の堀井某は、資產二十萬圓を有し市內各所に支店を有して手廣く營業して居るが、雇人杉本房吉、太田德松、足利安次郎等十一名は、十一月十日の休日に傭主に對つて種々の條件を提出し、更に淺草

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

馬道の旅人宿港屋に引上げた上、改めて數ヶ條の要求を提出し、若し容れられなければ斷然同盟罷工をする旨申し送つた。更科本店では大に狼狽し、支店から職人を集めて辛ふじて營業を續け、十三日罷工者全部を解雇して了つたと云ふ。

是れに付けても思になければならぬのは、同職業、就中同一工場、或は同一店に雇はれて居る職人勞働者間の連絡である。その意志の疏通、手段の一致、及び相互扶助の大精神である。此更科蕎麥のストライキの如きは、その關係せるところ僅々十一名の職工に過ぎないが、然も平生彼等の間に相互扶助、協同一致の精神を缺けるが爲め、まさかの時には切角の同盟罷工も、畢竟徒勞に歸して了ふ好適例である。勞働者は平生深く思ひを此の事實に沈潜しなければならぬ。

■勞働者の生命

□金田炭坑の大火災　福岡縣田川郡糸田村なる三菱所有の金田炭坑は、十一月十一日午前四時頃高壓電線切斷して火災を起し、十二日正午頃に至つては火は全坑内に燃え擴がり、火勢熾烈噴煙猛烈を極め、消防の手段に窮して居ると云ふ事である。之れが爲め、坑内に在る唧筒方二名、馬八頭は生死不明となり、救護員中三十四名は瓦斯の爲め一時危險に陥ゐつたが、辛うじて生命を取止めたる由。三菱會社の損害は數百萬圓に上るべく、或は二三ヶ月間、採炭の見込が立たぬかも知れぬと云ふが、吾々は平生之れに由て數十、數百萬圓の利益を收めて居る會社の斯の如き損害よりも、平生一圓に充たざる工賃にて勞働し、而して一朝災害に遭へば即ち生命を失ふ坑夫の運命に、滿腔の同情を表する者である。

□足尾の坑夫生埋　十八日午前十一時卅五分足尾銅山小瀧坑内の見張場から約九百尺の奥で、約五間の岩石土砂轟然たる響きと共に崩落し、附近に作業中だつた坑夫十四名は逃げる邉も無く生埋となつた。報を得たる百餘名の坑夫は直ちに發掘に努め、午後八時迄に九名を掘出したが、内四名は遂に死亡して了つた。如斯は足尾銅山空前の出來事であると云ふが、然し坑道の墜落、岩石の爆發等の爲めに、二名三名の死亡負傷者を出すことはザラである。

□浦賀船渠の椿事　六日午後二時半頃相州浦賀船渠會社で數十名の職工が新造船の外板取附工事中、起重機で捲上げて居た大鐵板が墜落して鐵工長森吉清次郎は頭部と胸部を粉碎されて慘死し、職工寺西榮次郎は頭部其他に重傷を負ふて生命危篤、其他重輕傷を負へる職工二名を出した。

勞働者は平生低廉なる賃銀で生產事業に從事し、資本家の爲めに巨萬の富を產出しつゝあるのであるから、せめては生命の安全位は圖つて貰ふやうに、自分達の決意と團結力とを以て要求主張するがいゝではないか。また其位の事は毫も咎むべき處の無い、至當な權で利はあるまいか。

■第十四聯隊長の暴狀

孤劍山口義三君の令妹は先頃小倉第十四聯隊附の村上義篤と云ふ陸軍中尉に嫁したが、同聯隊長の某は山口君が社會主義者たるの故を以て、その妹を娶るのは軍機を紊亂するものだと云つて、飽く迄も村上中尉の結婚を陸軍大臣に申達せず、剩さへ高壓的に離婚を命じた。然し中尉は兄が社會主義者だから迚、妹までそうとは云へぬと云つて命に應じなかつた。すると今度は、免職を楯に威嚇脅喝したが猶且つ應じなかつたので、最近竟に職を免ぜられ位記を返上せしめられた由である。

借問す第十四聯隊長足下、新聞紙が傳ふる强盜軍人、萬引軍人、人斬り軍人、賣國軍人、鷄姦軍人、コムミツシヨン軍人は、軍機を紊亂する者では無いのであるか。社會主義者にはまだ足下の同類の如き、野卑殘忍な獸は一匹も居ない筈である。

政府當局者よ、此の事實を記せよ、諸君は陰險皮肉なる迫害に依て、旣に久しく社會主義者から職業を奪つて來た。而して今や亦、その姉妹より結婚の自由をも奪ひつゝあることを■。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

勞働者の傷害

宮嶋資夫

日本の勞働者が一年間に何の位傷害を蒙るか、その傷害統計を調べて、それに依つて職業によつて異なる傷害狀態を說明して見たいと云ふ希望を僕は持つてゐた。

で、此如統計表の當然調製されてあるべき農商務省に行つて見たが、此所には、明治三十六年の調査に係る極めて不完全な、職工災害調査表一部を有する計りであつた。

年々地方官廳から、職工の災害數を本廳へ報告すべき規定とはなつてゐるが、今日では殆んど履行されてゐない。將來工場法が施行されて、監督官廳でも出來たら、悉しく判るようになるだらう。と農商務商の官吏は極めて呑氣な事を言つてゐる。

海外で一の同胞が災害を被つただけでも、大義明分の戰爭を起す事がある。政府は如此人民の命を重んじてゐるのださうである。然し内地に於て、日々幾千の勞働者が、傷害を被り、生命を衰いつゝあるかの數すらも知らない者が、人民の命を重んずるなどと言へる筈のものではない。

文句を言つて見た所で、判らない災害數は矢張り判らない。そこで僕は止むと得ず、明治三十六年の災害調査表と、大正三年の農商務省統計の中から、二三の事項を茲に抄出して見る事とした。

先づ第一に僕の目についたのは、日本の鑛產額である。千九百十三年中に於ける鑛產總計は、一億六千三百五十七萬四千九百五十五圓である。

が、然し、茲で一寸注意しなければならない事は、此の調査が正確か否かと言ふ事である。經營者が、自家の鑛產額を屆け出す時、稅の負擔を減ずる爲めに、二三割は內輪に見積ると云ふ事は容易に想像さるゝ事である。けれ共今は先づ此の調査表に從つて、解剖に取りかゝる。

次に鑛山就業員の數を見ると、二十六萬五千三百九十一人と記されてゐる。

鑛山就業員、即ち坑夫の賃金は、本番(日給の事)五十錢以上一圓迄、一等、二等、三等の階級がある。一等坑夫の數の尠く、三等坑夫の數の多い事は勿論である。が、今之れを平均七十錢と見積ると次のようになる。

二十六萬五千三百九十一人の一日取高十八萬五千七百七十三圓七十錢、一年間の就業日數三百三十日と見積れば、六千百三十萬五千三百二十一圓である。

鑛產總額一億六千三百餘萬圓から就業員の賃金六千百餘萬圓、及び鑛產總額の三割と見積つた經費四千九百萬圓餘を差引けば、殘額五千三百萬圓は、直接生產に從事せざる、所謂資本家側の純益なる事が判明する。

五千三百萬圓は二十六萬の坑夫に對し、一人一年二百圓に當る。即ち坑夫は、食ふや食はずの生活を爲しつゝ、生命を賭し、危險を冒す生產に從つて、年々二百圓を資本家に獻納しつゝあるのである。

更に鑛山變災調查を見るに、

一千九百十二年度

變災回數	三一、〇三〇回
死者	九八九人
重傷者	二、四一六人
輕傷者	二八、三三一人
合計	三一、七三六人

一千九百十三年度

變災回數	一三四、四五五回
死者	七三〇人
重傷者	九八九人
輕傷者	一三三、七九三人
合計	一三五、五一二人

而してその傷害の狀は、鑛山に在つては、ダイナマイトに依つて蒙る數、最も多く、負傷者千四百七十三人、死者十七人、落磐に依つて負傷する者、千三百六十四人、死者百三十二人、其他窒息する者百二人、捲揚坑道、坑車、或ひは捲揚臺昇降の際等に傷害を蒙る者が之れに續く。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

鑛山に於ける負傷者の狀態は、實に悽慘を極めてゐる。落磐の爲めの傷害とは、作業中或ひは坑道通過の際、突然落下し來たる岩石に打たれた者を言ふのである。小さな岩であれば少々の輕傷で濟むが、少し大きくなれば手足を踏み碎き、腦味噌臟腑を壓し潰される位は珍らしくない。腦を碎かれた者、顏面の半ばを剝きとられた者、腕をへし折られた者は、僕が鑛山にゐた頃にも幾度か見るを得た事實である。

炭山に在つては、窒息の數最も多く、三萬〇七百九十一人、其他瓦斯爆發、落磐、坑車等である。

即ち此の表に依つて見ると、一千九百十三年度には、全國鑛山就業者の過半は傷害を被つてゐる。

而して、此の死者、負傷者に對して。資本家の支出する金額は、死者には本番百日分、即ち五十圓乃至百圓、其他弔慰金、葬式料等合せて、百圓乃至百五十圓である。常陸の某銅山では、坑道稍廣きに過ぎて、非常に危險な場所がある、が然しその附近は所謂ポケツト（鑛石の溜り）で夥しく銅を産出する。此に於てか會社では、支柱夫の傷害者月二三名を豫算して、敢て作業せしめたと云ふ話を聞いた事がある。一人死して百圓乃至百五十圓の金で濟むならば、莫大の鑛物を産出する所では、月二三人の人を殺す位は何でもない事であらう。

然し、一人の藝妓を引かすに數萬圓を惜しとせず、一疋のブルドツクを購ふに數百金を投ずる世に、勞働者の生命の如何に安價に見積られたる事よ。

三十六年の災害調査表には次の如き報告文が掲げられてある。廣嶋縣の煙草工場にあつた事で、職工の名を幸一郎と云ふ。

右幸一郎は同工場にて就業中、自分着衣の裾を回轉輪機の眞棒に捲き込まれ、之れを外すの暇なかりしものか、遂に着衣の下部過半を捲き込まれて、身體共に數十回々轉し、其都度、煉瓦疊みの地磐に頸部及四肢を打ちたる爲め、遂に死に到りたるなり。

此の診斷書には

頸部及四肢を打ちたる爲め、後頭骨左方を打碎せられ、腦液を噴出し、右平時關節折れしとある。

資本家から見たら塵埃のように見える勞働者でも、回轉輪機に卷き込まれて、數十回煉瓦疊みに頭を打つければ、矢張り死ぬる人間である。而して此の救助金七十五圓と記されてゐた。

某紡織工場に於ける女工は、作業中俯向きたる刹那、頭髮蓬の如く亂れ居りし爲め、帶皮に捲き込まれて回轉し、朋輩が之れを發見して機を止めた時には、已に頭蓋骨挫碎し、胸骨を壓迫されて死んで居た。而して此の弔慰金は二十五圓であつた。

汽關破裂に依つて起る災害の原因を見ると汽關据付け後、蒸汽の漏出を恐れて安全辨を締切りたる爲め、氣壓上騰して破裂したるもの及び、長らく機關内部の障除を怠りたる結果、内部にスケール厚く固着して、氣壓計が正額に氣壓を示さゞりし等の原因に依る者が多かつた。

蒸汽機關に於ける安全辨は、氣壓が定壓以上に昇つた時、此の辨から漏出して危險を免るゝ唯一の救助機である。然るに無智にして貪慾なる工場主は、此の辨から漏るゝ蒸汽を惜んで締切らしたのである。汽關の破裂は當然の結果である。

後者も年數回、汽關内部を掃除すべき規定を、汽關運轉中止に依りて蒙る僅少の損害を恐れて怠つたが爲めに、破裂の運命を蒙つたのである。機關破裂に依つて蒙る慘狀は實に甚だしいものであるが、此表には少しも記されてゐなかつた。兎も角も資本家が、自家の私利の爲めに、平然として同類の生命を奪いつゝある事は、此表に依つても明らかである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

相互扶助論

ピヨトル・クラポオトキン
大杉栄 譯

私が若い頃に東西伯利と北滿洲とを旅行した際、殊更に深い印象を受けた、動物生活の二個の方面があつた。其の一方面と云ふのは、殆んど有らゆる動物の種が、容赦のない『自然』に對して、極めて峻酷な生存の爲めの闘爭を行はなければならぬ事であつた。自然力の齎らす、定期的の生命の大破壞がある。從つて私の觀察し得た此の廣大な地域に於ても、動物の數は甚だ貧弱なものであつた。更に他の一方面と云ふのは、稀れに動物の數の豐富な土地があつても、大多數の進化論者が（尤もダアキン自身は必ずしも左樣ではなかつた）生存競爭の主要特質であり進化の主要作因であると見做してゐる、彼の『同一種に屬する動物間の』生存方法の爲めの激烈な闘爭と云ふ事が、私も熱心に探し求めたのではあるが、遂に見出され得なかつた事である。

ユウラシアの北部地方では、冬の終期になると、恐ろしい吹雪が吹き捲る。そして屢々それに次いで薄氷のやうな霜が降りる。更に五月の下半、百花既に開き百蟲隨處に遊ぶ頃になると、毎年此の吹雪と霜とが再來する。更に又七八月の頃、初霜又は往々大雪が襲ふて來て。俄かに巨萬の昆蟲を屠り、野原の鳥の二番雛を殺す。そして更に又八九月の頃稍々溫暖な地方には季節風の齎らす瀧のやうな豪雨が降り濺いで、低地には亞米利加と東部亞細亞とでなくては見る事の出來ない程の大洪水を來たし、高地には歐羅巴全國を合せた程の地域を沼澤と變ぜしめる。最後に、十月はもう大雪が降り積もつて、遂には佛蘭西と獨逸とを合せた程の地域を、全く反芻動物の棲むに堪へない土地と化し其の幾萬幾十萬を破滅させて了ふ。

私は、斯くの如き狀態の下に北部亞細亞で闘つてゐる、動物の生活を見るのだ。そして此の事は、ダアキンの所謂『過度の增殖に對する自然的障碍』の方が、生存方法を求める爲めの同種の個體間の闘爭よりも、自然界に於ては遙かに重要なものである事を、早くから私に悟らしめたのであつた。此の後者は、特殊の事情の下では彼地此地に行はれてもゐるが、しかし到底前者の價値と比較になるものではない。斯く動物の數が多すぎると云ふ事ではなく、却つて其の少なすぎると云ふ事が、此の北部亞細亞と稱する地球の大部分の特性である所から、爾來私は、大多數の進化論者の一信仰箇條である『各々の中に食物と生存との爲めの恐るべき競爭』があると云ふ事、從つて又『斯くの如き競爭が新種の進化に主要な役目を爲す』ものであると云ふ事に、深い疑惑を懷き、そして其後の研究は益々此の疑惑を確かめるのみであつた。

そして猶一方に私は動物の數の豐富な所を見た。譬へば二十ばかりの種と數百萬の個體とが其の子供を育てる爲めに群居してゐる湖のほとり。齧齒類の殖民地。ウスリイ河畔で大仕掛に行はれた鳥類の移住。殊に又黑龍江畔で私が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

目撃した、淡黄色の地に白い班のある一種の鹿の移住。二萬ばかりの此の賢い動物は、大雪の來る前に遁げようとして彼地此地に散らばつてゐた廣漠たる地域から群がり集まつて來て、黑龍江の最も河幅の狹い所を横ぎつて行つた。そして私は、自分の眼前に現はれた此等の動物生活の何れの光景に於ても、相互扶助と相互支持とが盛んに行はれてゐるのを見て、此の事實が、生命の維持や、各々の種の保存や、又其の將來の進化の爲めの、最も重大な點ではあるまいかと考へさせられたものであつた。

最後に私は、トランスバイカリア地方い半野生の牛馬や又各所の野生の反芻類や栗鼠などを見て、凡そ動物が前述の如き自然的障碍の爲めに食物の缺乏と鬪はなければならぬ時には、其の災難に惱まされた種の部分のすべては氣力も健康も衰へ果てゝ了ふので、斯くの如き激しい競爭の時期の間に、到底其の種の進歩的進化が築き上げられ得べきものでない事を知つた。

されば其後進化論と社會學との關係に注意を向けた時にも、私は此の重要な問題を取扱つた如何なる著述にも同意する事が出來なかつた。其等の著述は、すべて皆な、人類は其の優秀な知力と知識とによつて人類間の生存競爭の激しさを和らげる事が出來ると云ふ事を、立證することに努めてゐる。けれども同時に又、其等の著述は皆な、一動物と他の有らゆる動物との、又一人間と他の有らゆる人間との、生存方法の爲めの競爭は、『一自然法』であると認めてゐる。然し私は此の說に同意する事が出來なかつた。何故かと云へば、各々の種の中に生活の爲めの容赦のない內亂が行はれてゐる事を認め、且つ此の內亂を進歩の一條件として認めるのは、私にとつては、まだ立證されない然も直接觀察の肯定を經ない事柄を認める事になるのであつた。

これに反して、一八八〇年一月、當時サン・ペテルスブルグ大學の學長であつた有名なる動物學者ケスレル教授が、露西亞博物學者大會で發表した『相互扶助の法則に就いて』と題する講演は、此の全問題の上に新しい光明を投ずるものゝやうに、私を感動させたのであつた。ケスレルの意見は、自然界には相互鬪爭の法則の外に相互扶助の法則があつて、此の法則の方が、生存競爭上の成功の爲めにも、又殊に種の進歩的進化の爲めにも、相互鬪爭の法則よりは遙かに重要なものである、と云ふにあつた。此の暗示は、實はダアキン自身が其の『人類の進化』の中に述べた思想を少しく敷衍したものに過ぎないのであるが私にはそれが非常に正鵠な、そして又非常に重大な事のやうに思はれた。そして私は、一八八三年に此の講演を讀んで以來、ケスレルが僅かに其の講演の中に大體の輪廓を描いたゞけで、遂にそれを發達さす壽命を與へられなかつた、此の思想を發展さす材料の蒐集にとり掛つた。ケスレルは實に一八八一年に此の世を去つたのである。

只だ私は、或る一點に於て、全くケスレルの意見に従ふ事が出來なかつた。猶此の事に就いては後の第一章で說くが、ケスレルは、動物間の互助的傾向の起原を、親子の情とか又は子孫を思ふ情とかに歸してゐた。けれども此の二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つの感情が實際に於て何れ程までに社會的本能の發達に與つてゐるか、又他の種々なる本能が何れ程までにそれと同じ方向に働いてゐるかを決定する事は、全く別々の且つ甚だ復雑した問題であつて、吾々はまだそれに論斷を與へる程度に到つてゐない。動物の各綱に於ける相互扶助の事實と、及び此の事實が動物の進化に何れ程重要なものであるかと云ふ事が十分闡明された後に、始めて吾々は、社會的感情の發達に於て、何れ程親子の情が寄與し、又は何れ程固有に云ふ社會心が寄與したかを、研究する事が出來るのである。此の社會心は、明らかに動物進化の最も遠い時代に、恐らくは群體時代に、其の起原を發してゐるのであるそこで私は、何よりも先づ進化の要素としての此の相互扶助の價値をきめる事に私の注意を傾けて、自然界に於ける相互扶助本能の起原を發見する事は他日の研究に讓つた。

『若し其の一般に行はれてゐる事さへ證明されゝば』、相互扶助が進化の要素として重要なものであると云ふ事は、ゲエテのあの偉大な博物學者的天才が夙に認めた所であつた。それは一八三七年の事であるが、或日エケルマンがゲエテを訪れて其、の飼つてゐた二羽のみそさゞいの雛が遁げ出して。翌日駒鳥の巣の中で其の雛と一緒に養はれてゐたと云ふ話をした。ゲエテは此の事實に非常に感激して、其の汎神的思想がそれによつて確證されたものと思つた。『若し縁もゆかりもない他人を斯うして養ふと云ふ事が、自然界の何處にでも行はれて、其の一般の法則だと云ふやうな事になれば、今まで釋く事の出來なかつた多くの謎は立ち所に釋けて了ふ』ゲエテは斯う云つて、更に翌日も其の事を語りながら、必ず『無盡藏の寶庫が得られる』と云つて、動物學者であるエケルマンに熱心に此の問題の特殊の研究を奬めたが、不幸にも此の研究は遂にされなかつた。尤も其後ブレエムが、動物間の相互扶助に就いての豐富な材料を其の著述の中に蓄積したのは、多分ゲエテの此の言葉に動かされたものだらうと思はれる。

本書の第一章の註に擧げて置いた如く、一八七三年か一八八六年までの間に、動物の知力や其の心理生活に就いての、幾多の重要な著書が公にされた。中にも次ぎの三書は殊に此の相互扶助の問題を取扱つたものであつた。即ちエスピナスの『動物社會』の『生存の爲めの競爭と競爭の爲めの共同』及びビュヒナの『動物界に於ける戀愛及び戀愛生活』これである。此の最後の書は、一八七九年に初版を出し、一八八五年に大分增補された第二版を出した。此等の著書は何れも結構なものであるが、猶相互扶助を以て諸道德本能の人類以前の起原を示す論證となし、更に進んでは自然界の一法則又は進化の一要素として論ずるやうな一著述の爲めに、廣い餘地を殘してゐる。エスピナスは、蟻や蜜蜂の如き生理的に勞働の分業が行はれてゐる動物社會に、其の主なる注意を獻げた。そして其の著述は有らゆる方面に於て立派な暗示に滿ちてはゐるのだが、當時はまだ今日吾々の持つて、ゐる程度の知識を以て人類社會の進化を論ずる事は出來なかつた。ラヌサンの講演は、海中の岩石から始まつて、植物界、動物界、そして遂に人類界にま

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

で說き及ぼすべき一著述の、寧ろ立派な腹案の解說であつた。又ビュヒナの著書は、甚だ暗示的であり且つ甚だ事實に豐富ではあるが、猶私は其の中心思想に同意する事が出來なかつた。彼れの著書は愛の讃歎を以て始まり、其の引例は殆んどすべて動物間の愛と同情とを立證せんとしたものであつた。

　けれども動物の社會心を以て單に愛と同情とに歸して了ふのは、却つて其の一般性と重要性とを減殺するものである。これは恰も人間の道德の基礎を單に愛や個人的同情の上に置いて、却つて全體としての道德感情の意義を狹める事になるのと同樣である。近所に火事のある時、吾々が手桶に水を汲んで其の家に馳けつけるのは、隣人、然も往々全く見も知らない人に對する愛からではない。愛よりは漠然としてゐるが、然し遙かに廣い共同心、又は社會心の感情若しくは本能が、吾々を動かすのである。動物に於ても亦同樣である。反芻類の一群或は野馬の一群が輪を作つて狼の襲擊に當るのは、愛からでもなく、又固有の意味で云ふ同情からでもない。狼が狩獵の爲めに團體を作るのも愛からではない。小猫や小羊が相戲れるのも、十數種の若い鳥が秋の野に遊び暮らすのも、愛からではない。又佛蘭西の全土にも當る廣い地域に散在してゐる無數の萠黃鹿が、數十組の別々の隊伍を組んで、それが皆んな大河を渡る爲めに或る一點に集まるのも、愛や個人的同情からではない。これ實に愛や個人的同情よりも遙かに廣い一感情からである。極めて長い進化の行程の間に、動物と人類との社會に徐々として發達し來たつた一本能からである。そして此の本能が、動物や人間に、相互扶助又は相互支持の實行によつて得られる力と、社會生活によつて得られる歡樂とを教へたのであつた。

　此の區別をして置く事の如何に重要な事であるかは、動物心理學の研究者、殊に倫理學の研究者には、容易に理解され得よう。愛や同情や犧牲は、吾々の道德感情の進步的發達に確かに重大な役目を爲すものである。しかし社會が人類の間に依つて以て立つ基礎は、愛でもなく又同情でもない。それは人類共同の意識。よしそれが僅かに本能の域にとゞまつてゐるとしても、兎に角に此の意識の上に基づくものである。相互扶助の實行によつて各人が得る力の無意識的承認である。各人の幸福がすべての人の幸福と密接な關係にある事の無意識的承認である。又各個人をして他の個人の權利と自己の權利とを等しく尊重せしめる、正義若しくは平衡の精神の無意識的承認である。此の廣大な且つ必然的な基礎の上に、更に高尙な幾多の道德感情が發達する。

　そこで私は、自然の一法則又は進化の一要素として相互扶助を論ずる一著述が、此の大缺陷を充たし得るものと考へた。然るに恰もハクスレエが一八八八年に、其の『生存競爭』の宣言書『生存競爭と其の人類に及ぼす影響』を公にした。私の見る所では、此の書は吾々が野原や森林に見る自然の事實を甚だしく誤り傳へたもので、私は書を雜誌『十九世紀』の主筆ジェムス・ノオルス氏に送つて、此の第

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

一流の進化論者の說に組織的駁論を呈する爲めに誌面を割愛されん事を請ふた。氏は多大の同情を以て私の請を容れてくれた。私は又、此の事をダルヰンの協力者であつたベエツにも話した『全く其の通りだ。それに、夫こそ本當のダアヰニズムなんだ。彼等はダルヰンを恐ろしいものに作り換へて了つた。是非其の論文を書きたまへ。何れ出版される時には、私も君に一文を送るから、勝手に其の手紙を公にしたまへ。』ベエツもこんなに云つてくれたのであつたが、不幸にして私の論文は六年近くかゝつて書き上げられたので、最後の章が公にされた時には、彼れはもう此の世の人ではなくなつてゐた。

　動物の諸綱に於ける相互扶助の價値を論じた後に、更に私は、當然人類の進化に於ける同じ要素の價値をも論じなければならなくなつた。是は譬へばハアバアート・スペンサアの如き、動物間の相互扶助の價値を認めながらも、猶且つ人類間のそれを認める事を拒む學者が多かつたので、愈々必要な事でもあつた。彼等の主張する所に據れば、原始人にとつては、すべての人に對する各人の戰爭と云ふ事が、生活の全法則であつたと云ふ。ホッブス時代以來十分な批評も加へられず、餘りに易々と繰返されて來た此の斷定が、人類發達の初期に就いて吾々の今日知る事實によつて何れ程まで確められるかは、本書の蒙昧時代及び野蠻時代に關する諸章に於て論ぜられてゐる。

　如何に多數の又如何に重要な相互扶助制度が、人類の最初の氏族時代、及び殊に其の次の村落共產時代の蒙昧人、又は半蒙昧人の創造的天才に依て發達し、且つ其等の初期の諸制度が現代に至る迄の、其後の人類の發達に如何に偉大な影響を及ぼしてゐるかを學んだ後に、更に私は、其後の歷史時代にまで私の探究の步を進めなければならなくなつた。殊に私はあの最も興味深い時代、即ち今日猶其の普遍性が認められず、又其の近代文明に及ぼした影響も十分に評價されてゐない、中世の自由都市共和國を研究して見た。そして最後に私は、極めて長い進化の間に人類の承繼いで來た此の相互支持の本能が、近世社會に於てすらも、今日猶非常に重要な役目を演じてゐる事の簡單な說明を試みた。近世社會は『各人は自己の爲めに、國家は總人の爲めに』と云ふ原則の上に立つものと假定されてゐるが、近世社會は甞つて此の原則の實現に成功した事もなく、今後と雖も決して成功する事はないだらう。

　猶本書に對して次ぎの如き駁論が出るかも知れぬ。本書に書かれた動物や人類は、餘りに著書の議論に都合のいゝ側から觀察されてゐて、其の社會的性質のみが力說され、其の非社會的利己的本能は殆んど論ぜられてゐないと。しかしこれは已むを得ない事であつたのだ。近來吾々は、各動物と他の有らゆる動物との間に、各野蠻人と他の有らゆる野蠻人との間に、又各文明人と他の有らゆる文明人との間に行はれてゐると云ふ、所謂『苛酷な容赦のない生存競爭』說を、耳の痛くなる程聞かされてゐる。そして此の斷定が全く信仰箇條になつて了つてゐる。で何よりも先づ、それとは全く異なつた方面の動物、及び人類の生活を示す幾

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

多の實例を擧げて、此の斷定に對抗しなければならなかつた。社交的習慣が、自然界及び動物や人類の進步的進化に如何に重大な役目を演じてゐるかを說かなければならなかつた。更に詳しく云へば、此の社交的習慣が、動物に其の敵に對するより善き防禦を保障し、屢々又食物を得る（冬季の貯藏とか移住とかの）便宜を與へ、壽命を長からしめ從つて其の知力の發達により大なる機會を與へる事、猶人類にも此等の利益の外に、自然に對する激烈な鬪爭に打勝つて、其の歷史の幾變轉の間に進步發展せしめる諸制度を與へた事を立證しなければならなかつた。私はこれをやつたのだ。即ち本書は、進化の主なる一要素としての相互扶助の法則を論じたもので、進化の有らゆる要素と其の相互の關係とを說いたものではない。此の最初の書が書かれて始めて後の書が書かれ得るようになるのだ。

猶私は、個人の主義心が人類の進化に及ぼした價値を引下げんとする、最後の人であるかも知れぬ。しかし私の信ずる所では、此の問題は、從來取扱はれて來たよりも、更に一層深い根柢から論ぜられなければならぬものである。人類の歷史に於ける此の個人の主義心は、多數の學者等が『個人主義』又は『主義心』の名の下に主張する淺小無知の狹量とは全く異なる、更に廣大な、更に奥深い何物かであつたのだ。又歷史を作り出す人物も、史家の所謂、英雄豪傑にのみ限られてはゐなかつたのだ。で私は、若し事情が許せば、個人の主義心が人類の進步發展に與かつた部分を詳論して見たいと思つてゐるのだが、此處では只だ次ぎの概論をして置くだけに止める。氏族、共產村落、同業組合、中世都市等の相互扶助的諸制度が、歷史の變遷の間に其の原始的性質を失ひ、寄生物の發生に冒されて、却つて進步の障碍となり出した時、此等の諸制度に對する個人の叛逆は、常に二個の相異なれる光景を呈した。即ち斯くして蹶起した一方の派は、舊制度の弊を矯めて純化せしめんとし、或は更に進んで同じく相互扶助の原則の上に基づく一層進步した形式の社會組織を建設せんとした。從來の『復讐法』を廢して『賠償』主義を採用し、更に後には赦罪法をも設け又被害者の階級によつて種々に異なる此の『賠償』法を廢して、良心の前には萬人が平等であると云ふ更に一層高尚な理想までをも容れんとした。然るにそれと同時に又、同じ個人的叛逆の他の一派は、相互支持の保護的制度を破壞して、只だ自己の富と權力とを增大する事に努めた。此の二派の叛逆者と現狀維持の守舊者との間の、此の三角鬪爭の裡に歷史の眞の悲劇があるのである。しかし此の鬪爭を叙述して此の三個の力の各々が、人類の進化に與へた影響を忠實に研究して行くには、少なくとも私が本書を書くのに費したのと同じ位の、多くの年月を要する事であらう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

眞面目の部分と全體

荒川義英

所謂眞面目なる文字の内容に就いては屢々論議された。僕は今その内容を闡明しやうとして此の文を起すのではない。今は眞面目なる文字の内容に就いては唯極めてコンヴェンシオナルな解釋法によつても差支なく、要は眞面目と云ふ文字を善い意味に認めて吳れる用意だけ願へば宜いのだ。

僕は所謂『眞面目なる藝術家』と云ふ名稱をかなりの多數から許された人を見た。然らば何處が眞面目かと聽くと紹介者は先づ例を示した。

曰く。一人の畫家があつた。彼は不思議な畫具(塗料)を何處よりか得て、他人の模倣を企て及ばぬ畫を作りあげる。他人が怪んでその出所を尋ねたが默して云はない。やがてその畫家は死んだ。見ると胸に大きな傷口を有してゐた。彼は眞面目であつた、と。

曰く。或る小說家は水底生活の感覺を感得するため、自から潜水夫となつた。又或る者は自ら飛行器に乘つた。皆忠實で眞面目である、と。

以上の二例が僕等には眞面目と云ふ感じをすなほに齎さないのは何故であらうか。僕はそれが部分的眞面目であるからとする。かつて某氏の書齋で友人と落合つたとき、談が現代歌人の事に及んだ、友人は歌人の一人だから某氏の問に應じて『S氏などは先づ眞面目な方です』と云つた。某氏曰く『S氏は歌を作る事に眞面目ですか、生きる事にまじめですか』

S氏の眞面目は終に歌を作る上の眞面目であつた。即ち机上の眞面目である。原稿紙へ向つてからの眞面目である。

僕はドストエフスキイを見た。彼は製作に際して甚だ不面目であつた。彼の小說には作意の有々と現はれるものの文句の冗長、意味の重複は常である。然るに嚴然として人間に迫るものあるは、彼が生きる事に眞面目であつたゝめである。

數年前文章世界などに文人の短評が掲げられた時、堺利彦氏を評して『彼はその生活が深刻なるに似ず輕いキツトやユーモアを呈し、毫も眞摯な所を見ない』と云ふ意味の事があつた。當時は自然主義(田山花袋氏等の所謂)の全盛時代であつてみれば、外の事情と比して成程此の位の事は云はれそうである。田山花袋氏は眞面目であつた。嶋崎藤村氏も眞面目であつた。彼等は机上の眞面目を發揮したのである。藤村氏等の藝術が所謂人生派を以て呼ばれ乍ら、實は『人生派てふ遊戲』を事としてゐた事は、甞て生田長江氏によつて喝破された所である。即ち藤村氏の『主義主張をぬきにして人生を觀』るのは長江氏の云ふ如く明らかに『L'art pour L'art』に立脚してゐたのである。相馬御風氏の所謂『巷に出』でなかつたのである。一の製作上の形式であつたのである。然るに堺利彦氏の場合は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

机に向つてこそは慥かに文章世界記者の云ふが如く『貝塚澁六などの別號を有』してふざけてゐたが、生きる事に於ては花袋、藤村の諸氏よりは遙かに眞面目であつた。

近來革命家なる言葉が亂用されて屢ば部分的の革命家と全體的の革命家とが混同されてゐる。曰く『彼はラサールが社會上に用ひた熱情を繪畫の上に用ひた。形を異にして現はれたが熱情の質量は同じである』。僕等の觀る所では、此の熱情は同じではない。斯くの如く主觀を沒却した立論は常に誤られ易いのである。是等は、職業は神聖なり、と云ふが如く不確かであつて、二者の本質の差異を辯ぜぬ鈍感者の言ひ分である。同じい抽象のうちにはいくらでも異つた具體が盛られる。僕等は近頃畫家や俳優がカンヴアスや舞臺の上で行ふ革命と、社會革命家が生死を賭して行ふ實世界の革命とを、同じ筆法を以て評價される不公平を常に可笑しく思ふのである。

泥棒乎役人乎

渡邊政太郎

前號所載『禁止物の配布』に記された事件で、僕は家宅捜索をやられた。僕及び赤羽君の遺著二百十七册は、元より事件の主體であれば、燒いて喰ふと、煮て食ふと、お上樣の勝手だが、其際、傳手だからと僕の所有に屬する社會主義の著書三十三册を持ち去つた。如此の不法行爲——僕をして泥棒乎役人乎と疑はしめる事實なのだ。

僕は平生私有財產なる物に對して極めて淡白なる者である。併しながら權力を以て威壓的に來り、官命の名の下に所有品を持ち去るに至つては、その物品の多少に拘らず、その儘捨てゝ仕舞ふ事は出來ない。

殊に僕が所有して居る書籍は総譲りの財產や、他人の勞力を掠奪して得た財に依りて買つたものは一册もない。お上よ！役人よ！汝こそ能くその出所を知る。汝が六七年の永き尾行の間、僕が風雨霰雪と戰ひ、飴賣りとなり、屑買ひとなり、人の用達となり、妻は薄暗き九尺二間の棟割長屋で人の賃仕事をなし粒々辛苦の餘、辛ふじて得た金錢を以て手に入れたものである。夫れを命令の一言の下に濫りに權力を以て持ち去るとは、隨分思ひ切つた仕方もあればあるものだと思ふ。

社會主義者と云ふ名の下に個人の所有に屬する書籍三十三册を、役人と云ふ權威を笠に着て、殆んど强制的に持ち去るに至つては、大日本帝國に住む社會主義者には、社會主義の書籍を所有する權利もないのかと疑はざるを得ぬ。

抑々僕が此事件に對して斯く興奮したのは單に僕の『書籍三十三册』が問題ばかりではない。此處六七年の間に、我國に於ける社會主義者の幾人かが、僕と同じ顚末で多くの書籍を奪ひ去られ、沒收された。此の事實を見る毎に、如何にかして彼等の不法行爲に報ひてやりたいと考へて居た矢先き、果然！白羽の箭は僕に立つたのだ。僕は先づ警視廳に丸山特別高等課長を訪ふてその不法を詰つた。そして『近代思想』の同人は僕に若干の紙面を提供され、依賴した辯護士も快諾され、更に多年斯る問題に對して不平を有せる東西の同志は、書面を以て應援された。僕は有らゆる方法を以て、此の泥棒乎役人乎と、鬪ふの決心をした。

然るに十月十九日、小石川富坂署の高等視察係り等は、僕の三十三册の書籍を古新聞に包んで返して來た。斯くして此の事件も吾々の勝利に歸した。謹んで同志諸君に告げ、同情と勢援とに對して感謝する。（渡邊政太郎）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

僕等の生活

同志より

■ 函館　久保田鬼平

種々御同情にあづかつた『足迹』も、漸く御四號發行の事となりましたが、發行の前日即ち此の十五日に、印刷所から持參するや否や、一部も殘さず全部押收されました。秩序紊亂とかで發賣頒布を禁止されたのです。

猶同日は、斯くして家宅搜索をされ、原稿書信、帳簿等全部押收された上、小生は朝八時から夜十二時まで、警察で訊問を受けました。そして其結果、猶小生所持の社會主義に關する書籍全部を、官憲に差出すの止むなきに至りました。

猶訊問書に拇印を押して歸りました。

■ 備中　黒鳩

今日は天皇陛下の御寫眞を下さる日なので生徒は皆なお迎ひに出る。中に一人だけ、どうしてもやつて來ない、女生徒がある。漸く嚇したりすかしたりして連れて來たのを見ると、尋常二年の子だが、その割にはからだが大きい。いくつかと聞けば、十四だと云ふ。學校へは、一ト月に一日か二日來たり、來なかつたり、實は毎日眞田工場へ通つてゐるのださうだ。

朝六時から夜九時まで、其間晝休一時間、晩休三十分、都合十四時間働いて、得る所一日給十錢（斯う云ふ事を始めて聞いた私は顏色を變へる程だつた。）其の仲間でも最高が二十四錢。人員總て九十、子持十人、あとは皆な娘、彼女の外にも、學齡兒童が、他に一人休日は十五日と三十日、此日はたゞ勘定を渡すだけで、勿論日給はなし。

猶彼女は、時々朝飯も食はずに學校へ來るよし。體重を計つて見ると三貫四百目、三歳位の幼兒でも、少し肥つたのには、これ位のがある。身長二尺九寸八分。

役場の小使の孫で、母は繼母。

■ 青森　天野孤星

弱き弱き俺なれば、自我の眞實に生きんとせる時、背水の陣を敷かざるを得なかつた。かくて俺の小さき努力は一雜誌發刊の計畫となつた。

既に身分不相應の注目を引きをりし俺は、愈嚴然たる注意人物となる事によりて、俺の進むべき道も確定され、此に弱き俺も眞實の生を送るを得べしと豫期してゐたのである。

然るに今俺は、急轉直下に廻轉し來たれる家庭の事情の中に捲き込まれて了つた。

四十年の健闘、その神身を破壞し盡せる我老父は肺勞となつた、殘骸を死の床に横ふるに到つた。此に我家の收入の大半は失はれたのである。家を外に僅かに一身を糊してゐたこの俺も、遂に此に十餘の家族を扶養すべき義務を分擔させられてしまつた。

母と兄と俺と三人分の俸給合して僅か三十三圓、之で病父と十人の家族を養はねばならぬのだ。俺の十圓足らずの俸給中、家に出し得るは僅か二三圓に過ぎねど、この小額も今は我が十餘の家族の死命を制する場合となつたのである。

やうやく心の弱小に打ち勝つて、眞理に驀進せんとせる時、俺は人情の柵に囚はれた。十餘の我家族を見殺しにして己一人眞實の生に驀進すべきか、我一身を殺して十餘の家族の犧牲となるべきか、亦も俺は迷はざるを得なくなつた。己が眞實に一歩を進む時は即ち一人の我が家族を殺すの時と思ふと、眞に迷はざるを得ない。泣かざるを得ない。

唯だ單に平民新聞の讀者たりしの故を以て——ことにそれが郡下に於て唯一人であつたが爲めに、不當の注目を受け現在の地位の安定をすら失はれた俺にとりて、一步を進むる時解職となるは知れ切つた事である。そして

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

俺の解職は即ち我十餘の家族の餓死を意味する。之を思ふ時俺は現實社會に服從を强制される。ア、十餘の生命と一つの生命、俺は遂に犠牲にならねばならぬだらうか。すると亦俺のこの弱り目につけ込んで、怯懦なる心が頭をもたげ出す。「妥協せよ、服從せよ、その頑固な心を捨てろ。すると十餘の家族もお前自身も、無事平安な一生が送れやう。平安な生活を外にして、何處に送り甲斐のある望ましい生活があらう、無益な反抗は止めろ、止めろ。」といふ考は、可なり强い力で湧いて來る。

然し俺は遂に死にまで徹して掴んだ自我の眞實を殺す事は出來ない。一度死んだ俺だ。俺には最早親兄弟はない筈だ。肉身の係累のこの自我の眞實を冒さんとするは、何たる僭越の沙汰ぞと、冷き理性が反動的に頭をもたげもする。かくて俺の心は唯だ〳〵迷ふに迷ふばかりだ。

迷ひ迷ふた上句、俺のかく苦しむ眞因は何かと第一に考ふべかりし問題にぶつかつた。ア、凡ては貧故ではないか、餓故ではないか而して貧と餓の原因は現社會の缺陷にある。

此に俺は最早や迷ふ要はない。奮進あるのみ。驀進あるのみ。

俺の進一步を阻害するものと思はれた、我が運命の悲慘は實は我決心を强固ならしむるものであつたのだ。現實に服從して餓と戰ふは消極的の手段に過ぎぬ。根本の原因を改めで末の末迄勞するは愚だ。食物の有餘る現社會に於て餓死するは、餓死する者の罪ではない社會の罪だ。罪の社會を改めぬ限り凡ての人の救はるゝ時はあるまい。罪の社會に屈從して生くるは、生くる者の恥だ。餓たらば死ね、死にたくなくば、乞食をなせ、盗みをなせ。社會があやまれる限り之も惡ではない、恥ではない。

今は最早躊躇すべきではない。俺は俺の眞實に生きねばならぬ。我が眞實に生くるを得る社會となすべく、現社會に叛逆せねばならぬ、破壞せねばならぬ。

かゝる中に我が十餘の家族は餓死するかも知れない、然しそれは止むを得ない。生きられなかつたら死んで下さいと、願ひ謝する許りだ。その代り俺は我家族の仇は打たう。

人は親兄弟を見殺しにする人非人、不孝者惡魔と罵るとも甘受する許りだ。餓えたるものは我家族ばかりではない、數萬、數百萬あるか知れない。加之、我は十餘の家族の子孫は幾百幾千となるかも知れない。俺はこの多數の子孫と、多數の人と、何ほ何ほ大事な自分自身の生命の爲めに、小の蟲を殺さうとするのだ。

ア、父上よ、母上よ、御許し下さい。私は親に刀をあてる不孝者です、人非人です、惡魔です。若し食ふ事が出來なくなりましたら止むを得ません。死んで下さい、死んで下さい。その代り私はあなた方を殺した社會に對して、きつと復讐しませうから。

ア、兄上よ姉上よ妹等よ、私の無情をうらんで下さるな、出來ますなら各自に自我に目さめて强く强く生きて下さい。さなくば止むを得ません。餓ゑたらば死んで下さい。死んで下さい。

ア、かくて俺は心を鬼にして、親兄弟の死骸を飛び越えて驀進しやうとするのだ、此に俺は愈よ先頃の決心に歸り、雜誌も來春早々に發行する事に決した。ア、然し思へば苦しき努力である。俺はこの一文を一字一句毎に親兄弟に切つける苦痛を忍んで書いた。血涙をしぼつて書いた。

■ 熊本 〇〇生

横濱の〇〇さんと手紙のやり取りをしてゐますと——大方それからだらうと思ひます——お上から色々のことを調べに來ました。

書物や手紙やをほじくりながら、それを一々書きつけて行く巡査のまへで、私は何だか皮肉な氣がしてゐました。恥かしい氣がしてゐました。

態々斯うして調べに來て下さる人の前に、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

英國勞働不安

荒畑勝三

一

土屋興氏の近業にかゝる『英國勞働不安』はその名の直ちに示すが如く、最近英國に於ける所謂レエボア、アンレスト、即ち一九一一年當時より一三年當時に至る、各種産業に於ける同盟罷工の連續を年代的に記述し、且つ其の範圍、原因、性質、將來、及び結果等の觀察をも試みて居る。その當にレエボア、アンレストの最も激烈を極めた一九一一—一三年時代に於ける勞働紛爭問題のみに止まらず、歐洲戰亂發生後の勞働問題、就中今夏サウス、ウエールスに行はれた炭坑々夫の大罷業の如き最新事件をも集輯したのは、著者の親切を見るべきである。

而して著者の本書を編める用意に至つては、彼の內地に在つて僅かに新聞雜誌記事の飜譯、若くは切拔に依て、海外の事情を揣摩憶測するが如き類ひでは無い。本書に記述せる勞働紛議の顚末の如きは、氏が曩に大阪每日新聞特派員として英國に滯在せるの間、親しく罷業地に赴き、罷業者に接し、實地に見聞した知識に基いたものゝ少なからざるは、堀江博士の序文に依て明らかである。更に國情風習等の甚だしく隔絶せる外國人が、利害並びに感情を異にせる他國勞働者の資本家に對する明白にして大膽、露骨にして凄愴なる一大決戰に對して、克く公明正大にして公平無私なる批評的態度を持する事は、一般に想像される程爾く容易な者では無い。然るに著者は此の點に於て、可なり偏見的ならざる態度をとる事に成功して居る。假令ば附錄『最近の南威爾西炭坑罷業』(二九六頁)に於て、『新聞紙の傳ふる所に據れば、今次の罷業は或は獨逸人の煽動に因れるものなりと云ひ、——二十萬の敵國勞働者を煽動するの全く不可能のことにして、斯の如きは英國勞働者に對する甚しき誣言なると共に——』云々と論じ、同事件を激成せる理由を軍需品を請負へる工場に於て、資本家が巨利を博しつゝあるに拘らず、時局を口實として勞働組合が多年苦心の結果獲得せる勞働條件を破壞する事實に歸し、政府が勞働者の罷業を干涉壓迫せるに對して是れ勞働組合が百年惡戰苦鬪の結果幾度か流血の犧牲を拂ひ、然も一定の制限の下に辛うじて獲得せる權利を奪ひ勞働者をして五十年前無援孤立の狀態に戾すものなりと痛論せるが如き、著者の勞働問題に對する明晰なる了解と論理とを見るべきである。

二

抑々、最近の勞働不安時代に於て、十萬或は百萬に及ぶ勞働者の大團體が短かきは數日、永きは數ヶ月に亘つて大同盟罷工を行ふを得たのは、表面一八七一年以降屢々制定された勞働組合の認可、同盟罷工の承認、其他勞働者に有利なる法律に因るが、然し其の勞働合同の如き極めて初步の權利の公認

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

されたのは、僅かに一八七一年の事であつて、それ迄は恰かも現時の日本の如く、勞働組合の組織や同盟罷工は或は徒黨罪、或は脅嚇罪、騷擾罪、業務妨礙罪等を以て罰せられ、或は英蘭ドウチエスタアに於ける罷業の如く、軍隊の力で復業を強制されさへもしたのである。然しながら彼等を驅るの勢力は、如何ともし難い產業發達の趨勢なのである。佛國大革命後のラ・シャプリエ法が苛酷嚴重なる罰則を擁して勞働者に臨めるにも拘はらず、革命に依て深い根を据えた近世資本家制度の發達は、勞働者を驅つて法律を冒して屢々同盟罷工に出でしめ、秘密に諸種の團結を作らせた如く、十八世紀中葉以降の英國勞働者も有ゆる障碍を打破して、その勞働組織を發達せしめたのである。

一八七五年同盟罷工を承認する法律が制定されて以來、無援孤立であつた勞働者は初めて公然に、その共同の利益の爲に一致して資本家に當る事が出來た。從つて勞働紛爭は漸やくその數を增し、斯くて一九一一年から一三年に亘つて、英國の社會組織を根底から震撼させた、所謂勞働不安時代を產んだのである。

三

此の三年間、即ち所謂勞働不安時代を招致した原因の一半は、僕が本誌前號に『英國大罷工の背後』と題して論じた處であつて、其の初年即ち一九一一年の罷業中、最も大であり且つ係爭者數の約半數を占めたるものは、全英各港水火夫總罷業と、鐵道從業者罷業との二より成る運搬業者の勞働紛爭である。サヾムプトン港水火夫同盟、グラスゴー市クライド水火夫同盟會、相呼應して罷業し、資本家側に水火夫同盟會を承認させ、調査委員會の組織を承諾させた。國際水火夫同盟會は倫敦、リヴアプール、マンチエスター、カアディフ、サヾムプトン、グラスゴー、及び南威爾西等の水火夫、船渠人足、運搬夫十二萬を率ひて資本家に迫り、遂に水火夫同盟會を承認させ、更に十志乃至十五志の賃銀値上を貫徹した。之に應じた運搬夫及び船渠人足七萬七千の罷業、並びにリヴアプールの同業者四萬八千の同情罷業、共に水火夫罷業協定の基礎で和解した。

此の暗憺たる風雲裡に、鐵道從業者總同盟罷工宣せられ、ランカシヤア、ヨークシヤア、倫敦北西及び大西の各鐵道、其他全英主要鐵道從業者殆んど全部罷業し、其數十四萬五千と稱せられた。その結果、勞働紛爭に關する舊和解方法を廢して新方法を協定し、且つ勞働組合の部分的承認を贏ち得た。

翌一二年は罷業熱の最高潮に達せる時代で、南威爾西の炭坑罷業の成功、及び倫敦船渠罷業の失敗、その全幅を彩つて居る。前者は同炭坑勞働者に對する八時間勞働、非勞働組合員の雇傭反對、及び最低賃銀設定を要求し、一部坑主の反對に會つた爲めに罷工運動が起つた。『總罷業完全に行はれ、三月二十一日に至つては罷業者數實に百萬に達し、全英の炭坑悉く閉鎖の已むなきに至れり。加之獨佛兩國に同情罷業起り、石炭輸入の希望全く絕たれ、鐵道の運轉は停止し汽船は港内に横はり鐵工場、造船所、織物紡績、煉瓦、硝

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子、陶磁器工場、浴場其他多量の石炭を要する事業は――非常の困憊を極め』た。是れ二月末の事であつたが、首相は屢々坑主と協商したが無効なので、遂に三月末に至り炭坑法案を議會に提出制定し、勞働協議會の設置及び最低賃銀を設定した。是れは實に勞働者の團結、勢力が政府を動かして、その意志を法律とさせたものである。

倫敦船渠罷業は、倫敦商事艀船會社が非勞働組合艀船夫を雇傭した爲め、運搬夫同盟會は全英同業者の總罷業を布告したが、所屬組合の反對する者多くして遂に失敗に歸した。然も獨り倫敦港の運搬夫は、頑强に罷工を繼續して五月から八月に亘つた。

一三年には前年の炭坑罷業の如き大規模の紛爭は無かつたが、『各工場殆んど罷業者を出さゞるは無く、――其紛爭數は一八九三年以來、二十個年の平均年紛爭數六百二十八件の二倍よりも多』かつた。而して其の最も激烈を極めたのはダブリン及びリーヅの總罷業で、前者は愛蘭運搬夫同盟の首領ラアキンの指導にかゝり、八月から翌年二月に亘つて繼續し、また後者は市營事業從業者が瓦斯電燈電車水道を始め、道路掃除夫に至るまで全部總罷業を行ひ、英國勞働運動史上都市的總同盟罷工の嚆矢を作せるものである。

初夏、ダブリン市街電車勞働者先づ賃銀値上時間短縮を要求して罷業し、次で全市の運搬從業者の罷業行はれ、一方資本家側はその使傭人に對つて運搬夫同盟の脱退、及び今後同盟との絕緣を强請し、政府の仲介をも却ぞけて背かなかつた。十月以後に至つてはラアキンは獄に投ぜられ、罷業者の窮狀言語に絕し、僅かに英蘭其他諸地方の篤志家の金品寄與に依て生活し『英蘭職工組合はラアキンの主張に反對なりしも組合員の醵金九萬磅を以て屢々食料品を滿載せる救濟船を派し、又は罷業者家族の少年少女を英蘭に引取り養育』して罷業者を救助した。此間幾度か協議調停が行はれたが悉く破裂し、十二月後は任意に復業する者續出してさしもの大罷業も翌年二月竟に全く終熄した。

リーヅ市の罷業は年末に際し、一週一志の賃銀値上を要求して行はれ、罷工者數は僅かに二千五百名に過ぎなかつたが、其の性質の都市的總同盟罷業なる點で最も重大である。罷業後數日間、リーヅ市は殆んど無生命の狀態に在つたが、市當局者の他地方より罷工破りを輸入し更に警官に命じて水源、發電所、瓦斯タンク等を防衛せしむるあり、同時に市民團組織せられリーヅ大學工科學長サドラー博士以下工科學生之に加はり、市營各公共設備の復舊に盡す事、猶一九〇六年八月瑞典ストックホルム市に於ける大罷業當時の如き狀であつた爲め、是れ又翌年一月に至つて勞働者の失敗に歸した。

四

以上は勞働不安時代の主要な紛爭だが、之を通觀して看取される普遍的現象は、實に同情罷工及び總同盟罷工の傾向である。假令ば一三年の秋リヴアプール、バーミンガム、其他英蘭停車場貨物係が愛蘭ダブリン總罷業に同情して罷業したる如き、又は英蘭ミッドランド地方の坑夫が、ダブリンの運搬

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夫に同情して罷業せるが如き、是れである。又一一年の水火夫船渠罷業、鐵道從業者罷業、一二年の炭坑罷業、倫敦船渠罷業、及び一三年のダブリン並にリーヅ罷業の如きは總同盟罷工の好適例である。著者は曰く『從來此種總罷業の多く行はれざりし所以のものは畢竟勞働合同不完全にして他種職工組合間の連鎖を欠きしに由る。若しダブリン罷業にして勞働合同一層完備し、他地方又は全國職工組合擧つて之を援助したりとせんか、二萬の罷業者の支持極めて容易なりしと共に、ダブリンの傭者は他地方より勞働者を輸入し、作業を再開すること困難なるを以て、勢ひ罷業者の要求を滿足せしめざるを得ざりしや必せり。』と。

而して著者に從へば『今や英國の職工組合はダブリン罷業の失敗に鑑み、勞働合同を一層強大ならしむる方針』を執り、現に一三年秋以來鐵工及び汽鑵工組合は合同して二十五萬の組合員を有する鐵工汽鑵工同盟會を組織し、大英坑夫同盟會は運搬夫及び鐵道從業者の二大同盟と提携して、三百萬の勞働者を網羅せる所謂罷業同盟を組織せんとして居る。然し乍ら既に一三年九月、全英傭者防衛同盟を組織して全英傭者を網羅し、五千萬磅の基金を擁して、大勞働合同に當らとんする計劃が發表された事もある。此の案は成立しなかつたが將來勞働合同の發展が大になれば、之に對抗する一大傭者合同の出現も豫想せられぬでは無い。著者は此點に關して『尤も多數職工組合員中の先覺者は夙に此點に着眼し、單に罷業基金にのみ依賴し能はざるを達見して、職工組合が總罷業の威力を增加すべき補助的施設を爲すの急を論ずるもの少なからず』と述べて居るが、然し僕は此の問題を決定するものは、外的施設に非らずして勞働者の內的思想であらうと思ふ。即ち佛のプーヂエ、米のビンセント・セント・ヂョーンス等革命的勞働組合主義者が唱ふる如く、罷業基金の可成的少額、罷業時期の短縮、並びに生產者のみならず更に生產機械の罷業を以て、有効なる手段となすに至るのではあるまいか。

五

本書第四章『シンヂカリズ』には、誤解若くは獨斷より來る謬論も少くないが、今は一々詳論して居る遑が無い。故に茲には、第八章『同盟罷工論』中の一節を拔萃して紹介を終る。『勞働者が團結して傭者に或る要求を致すは、多數の威力に依り少數者を壓倒するが如きも、勞働者が金權を有する傭者に對抗するの道は、團體として行動し同盟罷工を敢行するの外、他に直接採るべき手段の存せざるに因す。即ち資本の權力の偉大なる現在の社會組織に於て、勞働者は傭者に比し弱者たるの位置に居るの結果、兩者相對して勞働條件を締結する時は傭者は傭者たるの位置に據つて勞働者を壓迫し、勞働者が勞働上の効果として、自己の掌裡に收むべきものを傭者自ら其嚢裡に奪ふに至らざるを得ず。――勞働者が正當なる期待の正當に履行せらるべきを傭者に強要し、其應諾せざるに及んで雇傭契約を破棄して罷業を敢行するは、正當の處置と云はざるべからず。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

平民經濟學（三）

雇主階級の經濟的權力

大杉榮

一　近代工業制度の結果

近代工業制度の勃興は、歐米諸國民の生活の上に、先づ次ぎの如き結果を齎した。

一、國民の職業的組織の變更。
二、人口の分布方法の變更。
三、新階級即ち勞働階級の形成。
四、人口の増加と賃銀制度の擴張。

機械工業は、種々なる大工業と新しき運輸方法とを創設して、國民の職業的組織を全く變更せしめた。紡績工場の設立は、夥しき數の、男女の勞働者を要求する。鐵道も亦其の主線の布設せられる部分に、多數の地方人士を召集する。佛蘭西などでは、鑛山業と冶金業との發達が、數年の間に二十萬餘りの勞働者を鑛業地に吸收して、その爲めに農業者の數を減じさせ、著しく商工業者の數を増さしめた。斯くして商工業者と農業者とは、機械工業以前には二〇と一との割合であつたのが、今では殆んご同等の數になつた。

それと共に又、各地に於ける國民の分布方法の上にも、同樣の變化が來た。鑛脈所在地、紡績工業の發達に好都合な地方には、資本家が大工場大製造所を設立して、其處に勞働者の大聚團を形づくる。斯くして或る一地方に多數の人口が密集すれば、直ちに又、其處に衣食等に關する數多の消費工業を誘致して、更に愈々人口を増加する。

此の大工場大製造所の設立、及び人口の集中は、都市の價値と數とに影響を及ぼす。都市は增大した。各地方の到處に、舊都市と新都市とが見出される。幾多の工業都市が種々なる分子を以て建設される。

機械工業は、種々なる技術的及び經濟的結果を齎らすと共に、更に其等の結果は、新しき社會階級即ち勞働者階級を形成するに至つた。大工業に使用される勞働者は、規律ある共同勞働、勞働の極度の分業と云ふ、未聞の勞働形式を强ひられる。

機械工業の齎らす諸技術的必要は、是非とも、本當に規律のある共同の勞働を强請する。時刻通りに工場に集まらなければならぬ。缺勤をしてはならぬ。工場で定めた技術的制定の規則に從はなければならぬ。

又大機械によつて行はれる種々なる作業は、勞働の極度の分業即ち專門化を誘致する。今日では、人間は機械の召使である。人間は只だ機械の傍に侍つて、極めて小さな、いつも同じ仕事をさせられてゐる。

女や小供を工場に採用する所から起つた家族の解體、長家住居、都會の種々なる教育及び娛樂の影響、物質的生活條件の困難、失業、貧困、階級鬪爭、と云ふやうな大工業中心地の生活は、機械工業以前とは全く異なつた、多くの思想と感情と風俗とを發達させる原因となつた。そして其

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

等の一切の影響が相集まつて、一世紀の後には、新しき社會階級即ち勞働者階級を形成するに至つた。

鐵道、航海、鑛山、冶金、紡績等の發達は、商工業の活動を盛んならしめて、歐米の各國に人口の增加を來たさしめた。繁殖力の最も少ないと云はれてゐる佛蘭西ですらも前一世紀の間に、三分の一の增加を見た。且つそれに連れて、機械工業以前には職工の數が數十萬しかなかつたのが今日では八百萬の工塲勞働者を數へるに至つた。

斯くして近代工業制度は、勞働者の數と比例とを增加し、其の必然の結果として絕えず賃銀制度の範圍を妨げて行く。

二　雇主階級と勞働階級

今日の社會では、社會的生產が一私事として見做されてゐる。即ち雇主は、法律を侵さゞる限り、思ふまゝに其の事業を運んで行く事が出來る。そして雇主は、其の事業が社會に及ぼすべき影響に就いては、何等の顧慮する所もない。

斯くの如き經營方法は、雇主階級と勞働者との利害を全く相背反せしむべき、非常なる不都合を招く。即ち雇主階級の利益としては社會的分配の中の出來るだけ大部分を壟斷して、勞働者には出來るだけ小部分を與へる事になる。蓋し雇主等は其生產と分配との條件を規定する方法に從つて、勞働者階級に與ふべき部分を多くも少なくも減らす事が出來る。そして雇主等は、勞働者階級に團結組織のない所から、一切の經濟的及び行政的權力を其の手に收め、且つ其の權力を利用して、勞働者階級に與ふべき割前を減らす有らゆる手段を廻らした。換言すれば生產の費用を最小限にまで減らす事に努めた。

斯く雇主階級は、社會の欲望を滿足さすに必要なものを供給すると云ふ目的で、其の生產を行つてゐるのではない。只だ出來るだけ多くの利益を得たい爲めだ。此の利益の爲めの生產と云ふ事が、今日の社會の特徵なのである。

近代工業制度は、斯くの如き組織の社會に於て、益々兩階級の對抗を激成する。そして雇主階級は、其の掌握した權力を利用して、次ぎの『雇主階級の經濟的權力』の中に細說するが如き、左の三項の事を謀る。

一、機械工業の生產力が齎す利益を勞働者から奪ふ。

二、勞働者に對する其の專制主義を强める。

三、社會的分配の中の自分の分前を甚だしく增す。

三　雇主階級の經濟的權力

消費せらるべき生產物の量は、技術的方面から見れば、人の勞働と機械の生產力との、二要素に係る。

若し此の機械の生產力が、今日の塲合の如く、甚だしく增大すれば、勞働者は其の勞働時間を短縮しつゝ、猶其の消費を多量になし得べき筈である。然るに勞働者は、雇主が生產と分配との經營に必要な經濟的權力を握つてゐる間此の二重の利益を享ける事が出來ない。雇主等は、其の權力を利用して、恰も機械工業の存在せざるが如くに、最大

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

限の勞働と最小限の賃銀とを課する。

雇主階級は次ぎの如き經濟的權力を持つてゐる。

一、勞働時間をきめる權力。

二、賃銀の額をきめる權力。

三、勞働者が事故又は疾病の爲めに、一時勞働の出來ない場合に、其の賃銀をとり上げて了ふ權力。

四、社會的分配の中の自分の分前を、地代、家賃、利子利得及び配當等の名義の下に、先取する權力。

雇主は、機械の生産力に比例する、勞働時間の短縮を拒む。即ち機械工業の生ずる利益の一つを利用する事を、勞働者に拒む。雇主は、其の雇人と相談する事もなく、又機械工業の與へる新しき條件を顧慮する事もなく、只だ自已の利益の爲めにのみ、勞働時間をきめる。

生産物の量は、一般に、勞働の時間と比例する。そこで雇主は、生産費を減じて利益を增さんが爲めに、長時間の勞働を課する。嘗つては、しかも女子や小供でも、工場に出勤する時間は、十五時間乃至十八時間であつた。それが今日では、雇主の反對があつたのにも係らず、漸くに十時間乃至十二時間に短縮せられた。長時間の勞働は、勞働者の健康を害し、殊にそれが小供に及ぶ時には、人種の本當の墮落を來さしめる。しかし斯くの如き一般の利益と云ふやうな一切の考察は、長時間勞働が、雇主に、生産の經濟的條件をきめる專制君主たる雇主に、利益である間、少しも顧みられない。

今日の機械の生産力は、若しそれが生産の有らゆる方面に利用せられゝば、著しく民衆の消費を增し、其の殆んど一切の欲望を滿足せしめるに至るものである。然るに雇主は、機械の生産力の益々發達するにも係らず、賃銀と從つて消費との增加を拒む。斯くして雇主は、機械と人との勞働の結果たる剩餘價格を、其の手に收める。

此の雇主の利益と云ふ事が、賃銀の本當の法則なのである。此の法則の中に、其の一切の法則が包含され、又抄略されてゐる。經濟學者は、切りに其の法則を他に求めようとしてゐるが、要するにそれは無駄な事である。雇主は常に、最小限の賃銀、即ち勞働者の生命を維持さすに足るだけの賃銀しか與へないとする。同盟罷工をされても又工場閉鎖をやつても、別に雇入れられる失業者が控へてゐればいつでも賃銀を下げる。同國人よりも外國人の方が廉ければ、喜んで廉い方を雇入れる。又賃銀を上げても、それによつて自分の利益が保證され又は增加する時には、嚴密な必要以上に賃銀を上げる。譬へば監督とか技手とか云ふ、何等かの資格で特に自分の利益を保護するものには、高い報酬をやる。

勞働者側から見て賃銀を上げてもいゝと思はせるやうな理屈は、雇主には何の效果もない。賃銀は、つらい勞働いやな勞働だからと云つて、それに比例して上りはしない。又其の危險の度に應じて上りはしない。特殊の困難な、厭ふべき、又は危險な勞働に從事するものも、それが爲めに高く拂はれはしない。且つ又、特殊の才能なり科學なりを持つてゐても、若し雇主が免かれ得れば、報酬を上げる理

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

由とはならない。大工業に使用されてゐる技術家や化學者などは、往々屈辱的な報酬を貰つてゐる。

此の最小限の賃銀と云ふ法則は、其の結果として、大部分の國民の消費を制限する事となり、機械工業が其の驚くべき生産力を發揮するにも係らず、國民は猶甚だしき貧困に陷らしめられる。

斯くして今日の社會には奇怪な矛盾が行はれる事になる。即ち機械工業の發達は、勞働階級の幸福を增す筈であるのに、却つて其の幸福を減じさせられる。雇主は、勞働者を使ふ必要がなければ、報酬を拂ふ事はない。されば賃銀の總計は勞働の量と比例する。然るに機械工業の進歩は同じ量の生産の爲めの勞働の總量を減じさせるので、其結果として賃銀の量をも從つて消費をも、そして更に言葉を換へて云へば幸福をも減じさせる譯である。只だ幸にも、これと反對の方向に作用する或る現象があるので、此の減少的傾向も打消されて了ふ。即ち數十年以來の不斷の發明によつて、新しき工業が創始される所から、一方に減少しつゝある勞働の要求を、其處に償ふ事が出來た。

今日の機械工業の生産力は、各個人をして、其の勞働に堪へ得る間に、其の消費し得るよりも餘程以上に、生産せしむるに足るものである。されば各個人は、其の勞働を供給し得ざる如何なる出來事に際しても、十分に其の欲望を滿足せしめ得る筈である。然るに雇主は、勞働者の疾病、事故、癈疾等の場合に、更に言葉を換へて云へば、勞働者が最も金を要する場合に、其の賃銀をとり上げて了ふ權力を僭有してゐる。雇主は又、勞働者の老癈の場合に、養老金を與へる事を拒む權力を持つてゐる。そればかりではない。工業の性質上必然の休業の際にも、勞働者に賃銀を與へない。

此の規則も亦、甚だ重大な結果を齎すもので、若干の勞働者と其の家族との窮迫を導く。

雇主階級は、二種の人物、即ち普通に云ふ雇主と持主とより成る。持主は、其の所有する資本其物を自ら利用する事なくして、しかも猶分前を先取りする權力を持つてゐる。土地の持主は、其の土地の性質によつて高低する多少の地代を收める。家屋の持主は其の家屋と維持費との總計の利子として、家賃を收める。金主は、資本を貸したお禮として、其の利子を收める。

雇主は又、其の企業に注ぎ込んだ資本の利子の外に、各々の勞働者の勞働の生産物の上に、頭をはねる權力を持つてゐる。即ち價値を生産費よりも高くして利益を收める。株主は、大工業を營む會社に資本を供給して、其の貸した金の利子として、又それによつて得た利益として、所謂配當金を收める。

斯くして雇主階級は、今日では、幾百千萬の個人の上に其の經濟的權力を揮つてゐる。そして其の權力は、此の幾百千萬の勞働者から、機械工業の齎す二重の利益を壟斷せしめてゐる。又社會的分配の分前を、非常な割合に增加せしめてゐる。即ち近代工業制度は、雇主階級の掌握する經濟的權力の價値を、著しく增大せしめたと云つてもいゝ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

廿日鼠とドラ猫

榮

■復活號が無事だつたので少々安心してゐると、十一月號の時には、發行の當日に、又もや例の怪しい奴共が印刷所を取圍んでゐる。印刷所から社への持ち運びにも、其の妙な奴が隨いて來る。社では、丁度平民講演の來會者が、大がい皆な一人づゝのお供を連れて來てゐるので、門前市をなしてゐる。其處を、こちらも例の奥の手の自動車で、有吉、山鹿及び〇〇の三人が、大きな聲で『馬鹿、馬鹿、馬鹿』と連呼しながら、何處とも知れず突つ走つて了ふ。翌二日の朝、發賣禁止の命令は來たが、相憎、編輯用のたつた二部しか差上げる事が出來なかつた。

■三日の朝、恐る〳〵内務省へ出頭して、お氣に召さぬ點の指摘を乞ふと、又例の如く一體の調子が怪しからぬ上に、卷頭の僕の『秩序紊亂』と、山川の『女の抗議』とが、最も怪しからぬとの仰せであつた。

■七日の朝、いつものやうに寢床の中で新聞を見てゐると、『早稻田文學、秩序紊亂の爲め發賣禁止、多分大杉榮氏の論文が悪るかつたのだらう』と云ふ意味の事が載つてゐる。又かと思つて、早速近所の早稻田文學社へ駈けつけて見たが、これだけは僕のせいではなかつたらしい。紊亂のご當人たる相馬御風などは、こんどこそ始めて雜誌らしい雜誌が出來たと云つて、中村星湖と一緒に一杯飮む筈であつたのださうだが、あべこべに一杯食はされて了つたので、呆氣にとられてゐた。

■發賣禁止は、此の二三ヶ月以來、流行の氣味がある。先づ八月下旬には、酒田の同志の齋藤惠が、同町發行の雜誌『木鐸』に、アルツイバセフ作勞働者セヰリオフの紹介を載せた爲めに、雜誌は禁止、筆者は直ちに山形の未決監に投ぜられて、今まで公判中らしい。山形の次には十月の『日本及日本人』と『第三帝國』とがやられた。十一月には、本誌と早稻田文學との外に、神戸の『關西藝術』が風俗壞亂。それに別項『僕等の生活』にもある如く、函館の『足迹』が大ぶ手ひどいやられ方をしてゐる。堺の『新社會』もやられはしなかつたが、警視廳へ呼びつけられて、何かのとお叱りを受けたさうだ。又十二月號の『淑女畫報』が、與謝野晶子の『貞操に對する疑ひ』とかで、秩序紊亂でやられてゐる。

■先頃大阪朝日新聞は、支那政府が廣東の新聞十幾社とかの編輯局に一人づゝの檢閲官を派遣して、治安の爲めに言論の取締りをやつてゐると云ふ事を冷笑して、『國民に自由なくして如何にして治安を保ち得んや』などゝ云つてゐた。又同新聞は、袁世凱が教育部に命じて、孫逸仙黃興は大逆罪だ、と云ふ事を教科書に書かせたと云つて『教科書と云ふものは、何處の國でも得手勝手な事を書くものだが、……』と批評してゐる。此の何處の國でもと云ふ言葉は、見逃しのならぬ言葉である。日本の教科書にも、それに類した、矢張り得手勝手な事が書いてあると云ふのか。教科書と云つても、小學校で使ふ狹い意味の教科書の外に、まだ〳〵新聞だの雜誌だの書籍だのと云ふ、所謂國民教育の多くの出版物がある。それ等のものにも矢張り、前のに類した、得手勝手な事が書いてあると云ふのか。斯うしてだん〳〵押しつめて行つた結論が、どんな恐ろしい事になるのか、それを大朝子は知つてゐるのか。國民に自由なくして如何にして治安を保ち得んや、なぞでも、支那だけの眞理でなくして何處の國でもものと云ふ事になつたら、其の推論の結果は何うなるのだ。治安を紊すものは、國民の自由を奪ふものゝ謂である、と云ふやうた事になつたら、何うするのだ。

■一日の研究會の晩は、前にも云つたやうに謀らずも門前、犬の市を爲したのであつたが、丁度あの日から四十日間とかは、皆んなに護衛がつく事になつたのださうだ。スリ、氣ちがひ、朝鮮人、社會主義者と云ふやうな甚だ有難い順序で、此のお忙しい時にも係らず、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

特に僕等の身體の安全を謀つて下すつたのださうだ。ヤレ火藥庫忍入りのヤレ爆彈泥棒のヤレ汽車暗打ちのと、時もあらうに未曾有の不安が國民の心中にわだかまつてゐる際だから、途方もない馬鹿者どもが僕等に嫌疑をかけて無法な事でも仕出かしやしないかと、お上では、それぱつかりが御心配だつたのださうだ。誠に、ハヤ／＼、ご親切至極のほど、何んともお禮の申上げようもない。

■何でも僕の家の爲めには、最初は向ひのあきやに屈強な五六人の男が陣取つてゐたが、暫くして其の隣りの米屋へ移つた。終日終夜十幾つかのギヨロ／＼した目の玉を窓から光らして見張つてゐるのだから、僕の家は勿論近所合壁、用心のいゝ事此の上もない。僕と僕の家にゐる山鹿とは、一寸湯へ行くのにも二人づゝのお供をつれて歩く。ところが山鹿は、折角の此の護衛をうるさがつて、兎角に支那仕込の奥の手を出してあちこちの路次へ置き去りにするので、護衛仲間の間に廿日鼠の稱を得てゐる。山鹿に其の話をすると、道理で俺れにはあんなドラ猫のやうな奴がつくのだな、と憤慨してゐる。

■此頃、もと住んでゐた大久保へ遊びに行くと、あちこちで、僕が又大久保へ舞ひもどつて來ると云ふうはさを聞く。そして何處でゞも、『本當に歸つてゐらつしやいな』と、お世辭ばかりのやうでもなく云はれる。いろ／＼話をきくと、僕の家がひつこしてからは、其の近所に切りにコソ泥が入る、例の出齒龜の子分どもが出る、夕方になると女小供は恐はがつて慄えてゐる。女中などでも、いくら何と云はれても、使ひに出ない。そこで又、大杉さんが來て下されぱと云ふ事になり、そして此の希望が更に進んで、いよ／＼歸つて來ると云ふうはさにまでなつたのださうだ。要するに、大久保の秩序は、僕がゐなければ保たれない譯なんだ。

■しかし此の護衛の先生にも、あまりうるさく付きまとはれると、折角の有難味もぬけて少々カンシヤクにさはる事がある。先日も僕の家の、道路に沿ふた窓の所へ、小汚ない面をちよい／＼と出してはひつこめる奴がある『何者だ』と怒鳴りつけると『同じ人間なんだから、もつと柔しい言葉で物を云つてくれ』と云ふ。『貴樣は同じ人間だと思つてるのか。こつちは人間だが、貴樣は犬ぢやないか。馬鹿』と再び怒鳴りつけたが、まだ何か愚圖々々云つてやがるので『貴樣のやうな奴に物を云ふ事はない』と甚だ大人氣ない事ではあるが、三四度其の面にツバキをしつかけて逐ひ歸した。又堺や宮嶋の所では、女中を嚇したりすかしたりして、客の名や其他いろ／＼と聞きたゞして、あげくに五錢玉か十錢玉かを握らせようなどとして、却つてウンと油を搾られる。ご親切も、仇にならぬまでに、やつて戴きたいものだ。

■又、先日大嶋へ行つて來た一友人の話に、其處へ二人の青年がお供づきで遊びに行つた所、十二月の幾日までとかはどうしても歸りの船に乘せないと云ふので、大ぶ困つてゐると云ふ事だ。

■ところが、此のご親切の過ぎようにも亦、いろ／＼仕方がある。東京では餘り聞かないが、大阪邊ではさかんにご馳走をする。一寸飯を食ひに行く位の事は愚か、藝者買ひや女郎買ひにまでもお供をしてくれる。先日、向ふから來た一同志の如きは、東海道の道筋を大がいは官費で、太平樂に見物もし遊びもして、やつて來た。そして其の同志は、旅行するなら今だぞと云つて、會ふ同志毎に勸めてゐる。

■寄附金■

一金拾圓也　吉川世民氏
一金貳圓也　松浦長治氏
一金壹圓也　○○氏

同志諸君

榮

　從來近代思想社は、荒畑と僕との二人で、編輯經營等の一切の事に當つてゐたのだが、雜誌の性質の一變すると共に、今迄の方法ではいろ〳〵と不都合を生じて來た。そこで一方に社の基礎を固めると共に、他方に益々雜誌の充實と發展とを謀つて行く爲めに、次の如き二重の方法を試みる事にした。

　即ち從來は、發意者二人だけの仕事と云ふ傾向が多かつたのを、こんどは反對に、本當に同志全體の仕事と云ふ方へ導いて行く方針を取つた。先づ第一に、一切の事務を大勢で分擔する事とし、其の責任者を次の如くきめた。

會計係　吉川世民、川上眞行。

編輯係　百瀬晋、荒畑勝三。

廣告係　吉川世民、堀保子、

　猶、僕が宮嶋に代つて發行人となり、從つて何處か田舎へ行く筈になつてゐるので、發行所や事務所も變はる譯だが、それは一月號で發表する事とする。それまでは矢張り、一切の通信を、今の社に宛てゝ戴きたい。

　第二には、近代思想同人會なるものを設けて、社の經濟的基礎を固める事とした。其の規約は次の如し。

一、近代思想社の維持と擴張とを謀る爲め同志及び同情者より組織する。

二、會員は、毎月月末までに一口金五十錢（或は數口）を、近代思想社に提供する。

三、近代思想社は、毎月一回、同人會々員に、會計報告をする。

　同人會は、十一月廿六日夜近代思想社に集まつた吉川世民、川上眞行、有吉三吉、百瀬晋、宮嶋資夫、同麗子、荒畑勝三、相坂佶、大杉榮、堀保子、荒川義英、山鹿泰治、古川啓一郎の十三名發起となり、十二月一日を以て成立する。

　斯くして雜誌の編輯は、事務の分擔者の多くなると共に、更に多數同志の寄書や助言によつて、そして社の經營は、多くの同人會員の醵金と、更に多數讀者の購讀料とによつて本當に同志全體の仕事となる事が期せられようと思ふ。そして又、斯くして雜誌の充實も發展も社の基礎の堅固も、容易に達し得られようと思ふ。

　僕等はもう、最近の僕等の運動の第一期から拔け出て、更に種々なる方面の第二期の運動に取りかゝらなければならぬ。そして此の運動は、總ての同志の、各々其の才能と境遇とによる、爲し得るだけの努力に基づかなければならぬ。

■定價一册金十錢、半年分前金五十五錢一年分前金一圓。但し外國は別に一册金二錢宛の郵税を要す。郵券代用は五厘切手に限る。但し一割増の事。
■廣告料特別一頁廿圓、普通十五圓。
■本社振替貯金番號東京一七一六三。

大正四年十二月一日發行

府下調布町布田小嶋分一六七　發行人　宮嶋信泰
東京小石川區武嶋町二四　編輯人　大杉榮
府下大久保百人町三〇七　印刷人　荒畑勝三
府下調布町布田小嶋分一六七　發行所　近代思想發行所
東京市神田區表神保町十　印刷所　第三帝國印刷所

大賣捌所　東京堂、上田屋、東海堂、北隆館

地六社復刻版
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雄篇大作　植竹文庫　全譯縮刷

■第一編■

アルツヱバシェフ作
武林無想庵譯
（五版）

縮刷　サニン　全譯

原著は露西亞文壇の巨匠アルツヱバシェフ氏の傑作にして結構の幽微描寫の精妙共に幾多の大陸文學を壓倒しその深大なる虛無思想は露土の曠原を抱擁して尙餘りあるところ譯筆又雋鋭辭句の辛辣精細にして叙述の確的なる原作の俤を髣髴せしめ讀者をして殆んど卷を措く遑なからしむ、――時事新報評――

■原稿紙九百五十枚の大作
■四六版美形箱入美本
■全六號四百餘頁
■定價九十錢　郵稅八錢

■第二編■

伊太利の碩學ロンブロゾーの代表作「天才と狂人」の全譯初めて現はる。

縮刷　ロンブロゾオ著　辻潤譯

全譯　天才論

（四版）

凡そ天才を論じてかくまで該博精緻なる科學的研究の根據に立脚し而も興味湧くが如きものは蓋し空前なり。引照せられたる幾多の詩歌文章また一種獨得の文學を構成す。科學書にして科學書に非ず、文學書にして文學書に非ず、心理學？生理學？形貌學？否、否、否、是等の全てなり、近代文藝を根柢より理解せんと欲する人々は云ふまでもなく凡そ天才の眞に如何なるものなるかを知らんと欲する人々は先づ此の書を讀め。

■原稿紙約九百枚の大作
■全六號紙數約三百五十頁
■寫眞版約五十個挿入
■定價九十五錢　郵稅八錢

發行所　東京市麹町區三番町八十四　（振替東京一二九五三）　植竹書院

宮嶋資夫作

坑夫

堺利彦氏序
大杉榮氏序

十二月十日發行

四六版二百餘頁
定價四十五錢
郵送料六錢

外國文學の模倣に非ず、安價なる享樂の産物に非ず。著者が過去十數年の苦き放浪生活の結晶なり。寫實にして反逆的精神に富む一勞働者の生活を、日本人に依つて描かれたる、文壇唯一の作物なり。

横暴にして狡猾なる資本家に對する憎惡反抗。虚僞怯懦權力に媚び、友を賣つて恬然たる、無恥無氣力の勞働者に對する輕侮反感。美と平和の世界を求めて得ず、去つて反逆と闘爭に生きたる主人公に對する讃美は、全篇を貫く著者の精神なり。

沈痛にして實感的、血を以て描かれたる、敢爲なる一坑夫の生涯に接せば、壓迫か、喜悦か、恐怖か、羞恥かの感を與へられざる者なからん。

矛盾せる社會組織に激したる勞働者の、徹底せる本能の叫びを聞かんと欲する人、僅少の賃金に幾多の人類が生命を賭して、貴重なる生産に從事しつゝある坑山生活の、凄慘暗黑の狀を知らんと欲する人は此の書を讀まざる可からず。

東京小石川武嶋町二四　近代思想社　振替東京一七六三六

讀書界を騷がせて居る

●小山内薰作　△定價壹圓送料八錢（市内四錢）△四六版特製函入裝幀瀟洒〔最新刊〕

直ちに再版▼

盲目

戀は盲目。「大川端」の以來長篇。回顧廿年間の戀物語

新らしい女の生れる前の少女とロマンチシズムの夢の未だ全く醒めない學生との戀の告白である。著者が**小學校時代、中學校時代、高等學校時代**の學生少女間の内部生活で、當時の學生は未だ純潔を夢み神の前の火のやうに常に胸の炎を汚されまいとしてゐた。そこには矛盾がある煩悶がある且つ又光彩がある茲にその一切を物語る。小山内氏得意の舞臺は開かれたり！

◎大評判の

柳亭種彥作　歌川國貞畫（一、二、三、四全四册）（一册七十錢送料八錢）

繪本 偐紫田舍源氏

定價四册二圓八十錢　▲送料十六錢

●菊版大和綴製本瀟洒
●今樣活字組振假名附
▲原本同樣全頁繪入
●木版十數度手摺挿入

●江戶趣味の權威——我文藝界の珍寶〔忽ち再版〕

發行所　東京市本郷千駄木町　振替東京九五五六番　小川四方堂　賣捌全國　各地書店

近代思想 第三巻第三號 大正四年十月廿日第三種郵便物認可 大正四年十二月一日發行（毎月一回一日發行） 十二月號 金拾錢

WELL-MATCHED PAIRS.

TOOTH-BRUSH AND

"LION" DENTAL PASTE.

TOWEL AND

"LION" TOILET SOAP.

ブラシに

ライオン齒磨

好一對

本舗 東京 大阪 名古屋 小林富次郎

ライオン石鹸

タオルに

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN